

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

連番	418	例会No.	一般252	内容	六甲山・天狗岩南尾根～紅葉谷下降 10周年記念山行・近畿の山EPE特選コースー1	実施年月日	2011/11/6	担当者	板谷、大西(征)	
参加者	板谷佳史、大西征四郎、樺田克彦、杉本康夫、長瀬茂正、秋田文雄、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美、神阪洋子、小椋美佐、江本恭子、寺島直子、近藤さとみ、寄川都美子、本郷善之助、奥中種雄、三原秀元、黒澤百合子、翁長和幸								参加者数	19
担当者コメント	E. P. E. クラブでは11月から早くも年度が替わり、2012年度の最初の例会となりました。同時に創設10周年の年でもあり、これを記念して10周年記念山行が実施されることになりました。今回はその第一回目の山行でもあります。記念山行の概要については、すでに発表されておりますが、詳細については2012年の新年会にて発表される予定です。本日は記念山行のうち、「近畿の山EPE特選コースー1」が先行して実施されました。記念山行への参加回数により賞品が用意されている・・・というためかどうか？あいにくの雨の予報にもかかわらず、多数の参加を得て天狗岩南尾根の急登に臨みました。登り出すとすぐ雨、幸い強くは降らず、天狗岩からの眺望はゼロでしたが、雨の六甲もたまには良いもの。多人数、天候、所要時間を考慮して予定の白石谷を避け紅葉谷を下降することに変更。裏六甲に入ると紅葉もかなり進んでいるようでした。有馬に下山する頃には雨もあがって、紅葉の谷にガスが立ち昇り清々しい気分になりました。次回以降の記念山行参加に健闘されるよう、お願いして有馬温泉で解散。その後はさっそく温泉気分浸った人もいたようです。 記:板谷									
連番	419	例会No.	一般253	内容	湖西・箱館山	実施年月日	2011/11/13	担当者	紀伊栞本(節)、柴田(弘)	
参加者	紀伊栞本節雄、柴田弘子、畑山禮子、笠松マサエ、田中智子、樺田克彦、横内まみね、堀木宣夫、上原進一、寄川都美子、紀伊栞本博美								参加者数	11
担当者コメント	スキー場の奥にこれほど素適な湖が隠されていたとは知らなかった。もともと整備されたハイキングコースであったようだが、スキー場がシーズンオフの活用に有料花園を設けたことから、グレンデの周囲をすっかり無料なネットで被ってしまい、その結果がハイカーにそっぽを向かれたようだ。どちらが地元にとって有意か、考えるまでもない。しかしつい先頃の雨飾山の超混雑を思うと、誰に出会うこともない静かな山が、こうして手近にあることを喜ぶべきかもしれないが。さて、ハイキング+αも今回で8回目を重ねた。ここに来てようやく、このシリーズの目指すもの、面白さが見えてきた。やっぱり何事も手間隙を惜しまず、足で稼いで、勇を奮ってやってみよう。ハイキング+αが=ハイキング+食探(食探訪)と昇格できるまで。 記:紀伊栞本 鮎寿しという、世間の評判や先入感からか、今までのプラスαの例会に比べると申し込みが少なかったようです。鮎寿しが好きという人、食べたことがないので一度チャレンジしてみたいという人で、参加者11名が近江高島の喜多品老舗に行きました。喜多品老舗は創業1616年の鮎寿し造りの老舗です。気さくな女将さんに案内されて座敷に入ると、すでにお膳が用意されていました。今日作ったというゴマ豆腐、鮎煮ではなくお醤油でさっぱりと煮たもろ子の煮物、上品に味付けされたえび豆、ご飯にのせられたごりの佃煮と、そして鮎寿しです。一つ一つが手作りで、手間と心のこもった品ばかりです。鮎寿しは食べられるかなと心配していましたが、女将さんの説明でお酒と合わせて頂くと、匂い気にならず、おいしく頂くことが出来ました。このあと、手長えびと里芋、もろこの天婦羅が出ました。揚げたてのアツアツを頂くとおいしかったこと。お酒もおおいに進み、あちらこちらから、おいしい！おいしい！の声が上がりました。最後は、鮎寿しのお茶漬けです。鮎寿しに絶妙なバランスで入れられたとろろ昆布ときざみ塩昆布で、鮎寿しのおいしさが引き出され、さらさらと食べてしまうほどおいしかったです。全員完食し、大満足で「今日は、思い切って来て良かった」と言いながら帰路につきました。 記:柴田									
連番	420	例会No.	OP159	内容	扇ノ山と蘇武岳	実施年月日	2011/11/19~20	担当者	板谷、本郷	
参加者	板谷佳史、本郷善之助、小椋勝久、小椋美佐、長瀬茂正、宮平良雄、奥中種雄、黒澤百合子、田中智子、柴田弘子、近藤さとみ、保木道代、神阪洋子、寄川都美子、寺島直子								参加者数	15
担当者コメント	昨夜は日本海を低気圧が通過して、今日は冬型の気圧配置となるようだ。5時頃、まだ雨が残る中でコーヒだけ飲んで全てがビショビショになってしまったキャンプを撤収する。蘇武岳の登山口へ移動途中で雨を避けられる場所を探して体制を立て直すことにする。低気圧の日本海通過、その後の冬型気圧配置と絵に描いたような冬型天候のただ中での例会となってしまいました。せめて雨風を避けてのキャンプ、宴会だけでもと期待しましたが、避難小屋のあてが外れたおかげで叶いませんでした。小屋の先客は十分あり得ることなのだから、代案を計画しておかなかったことはリーダーの怠慢でした。それにしても登山中はもちろん、キャンプ中もかなりの強風雨で体も濡れ勝ちなのに、皆さん意気消沈することもなく、慌てず騒がず、粛々と当初の計画に協力して頂きました。とすれば、中止の誘惑にかられるくらいの日候でしたが、そうしていれば後で後悔すること必定ですから、そういう気にさせない心強いメンバーと登山ができて幸せと感じた二日間でした。帰った翌日、氷ノ山やハチ高原では初冠雪とのニュース、扇ノ山でも雪だったのかもしれませんが、今年もいよいよ冬です。 記:板谷									
連番	421	例会No.	一般254	内容	紀州・飯盛山	実施年月日	2011/11/23	担当者	三原、大西(恒)	
参加者	三原秀元、大西恒雄、宮平由紀子、樺田克彦、寄川都美子、近藤さとみ、小椋美佐								参加者数	7
担当者コメント	飯盛山は文字どおり、お茶碗に飯を丸く盛り上げたような形の山の意で、米食を中心とした日本民族が昔から親しみを込めて眺めていた山であるゆえ、全国に同名の山が数多くある。関西だけでも5つ位はあるだろう。この度の紀州飯盛山は中腹までみかん畑や柿畑で登山の魅力には少し欠けるが、高野街道七口の一つ大門口へ続く麻生津(おうつ)峠道をセッティングして登ってきました。出来るだけ旧街道を忠実に行くことにする。麻生津の集落の道筋には「麻生津村道路元標・高野山大門五里」という古い石標が残っており、街道筋には古い家並みが要所に残っている。六地藏や大師の井戸などの旧跡も多く、舗装された道ではあるが退屈しないで歩くことが出来た。最近訪れる人もまれなのか農家の人たちは皆な親切で我々遠来の訪問者にもみかんや柿などを持たせてくれて暖かく迎えてくれる。ここには未だ日本の良き時代の人情味が十分残っていて嬉しくなってくる。麻生津峠からは紅葉真っ盛りの尾根道を行く、ここは南北朝時代北条一族と楠正成軍が戦ったと言われる場所でもあり、1970年頃に建てられたらしいこの山には不釣り合いな観光用のお城や宿泊施設もあるが今は廃墟となっている。自然の中に作った建造物は使用している間は許されるとしても、使用されなくなるとゴースト化して不気味な感じさえする。建てた者の責任で速やかに撤去すべきだと思う。飯盛山の頂上は灌木に覆われて展望こそないが二等三角点がありしっとりとした落ち着いた感じのするところだ。山頂周辺には曲輪(くるわ)という濠の跡があり兵どもの往時が偲ばれる。下山も同じルートで下る。紀ノ川を眼下に正面は和泉山脈が連綿と続いているのを眺めながらJR名手駅へ急ぐ。 記:三原									

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

連番	422	例会No.	一般255	内容	ベーシック登山No.10 箕面・最勝ヶ岳	実施年月日	2011/11/26	担当者	秋田、野原	
参加者	秋田文雄、野原勇、磯辺秀雄、吉田伸實、谷村洋子、樺田克彦、寄川都美子、紀伊榎本博美、安本昭久、安本嘉代、保木道代、上原進一、三原博子、青木義雄、喜多田恵美子、藤田喜久江								参加者数	16
担当者コメント	今回は関西では紅葉の名所の勝尾寺と箕面大滝へ。コースは、昔は勝尾寺の参道でもあった外院尾根。阪急外院バス停から帝釈寺北交差点を左折。舗装道を行くとY字分岐を左へ。貸し家庭菜園の畑に、ここからのどかな里山風景を眺めたりしながら登ると、貯水池にでる。此れより外院尾根の山道は雑木林の中緩やか登る。休憩ベンチがある。栗生団地が一望できる。この先旧参道と古参道に分かれる、我々は古参道を、どちらをとっても再び合流する。道はマウンテンバイクやジョギングなどで固められている。この辺は松の木が多く普段の日なら静かな山歩きが楽しめるだろう。「しらみ地蔵」の分岐過ぎると、下りの階段より勝尾寺の正面に、一転して紅葉が目に入る。勝尾寺に入らず、最勝ヶ峰の登山口の前の広場で昼食。天気も良く風もなく秋日和の好き日で食事後一杯のコーヒで心いくまでのんびりしました。これより最勝ヶ峰へ少し急な登りで15分ほどで最勝ヶ峰(開成皇子の墓)残念ながら展望がない。墓を進むと円形の方位盤があり少しの景色しか開けておらず方位盤も傷んで良く分からない。山道は東海自然歩道なので道も道標も整備されマツ林の中小さな登り、下りをなにか過ぎると箕面川ダムの見える橋に、この先に自然教室ビジターセンターに。これより車道を歩くと杉ノ茶屋まで交通量も多く(11月中は一方通行で片線は駐車場になっている)車と人に注意が必要だ。箕面大滝は紅葉もちらほらで何よりも人が多く早々に退散し人の合間を縫って、阪急箕面駅で解散。記:秋田									
連番	423	例会No.	一般256	内容	大和・音羽山	実施年月日	2011/11/27	担当者	翁長、松本	
参加者	翁長和幸、松本明恵、紀伊榎本節雄、奥中種雄、長瀬茂正、保木道代、堀木宣夫、安岡和子、小椋美佐、福田直也、近藤さとみ、寺島直子、柴田弘子、田中智子、笠松マサエ、横内まみね								参加者数	16
担当者コメント	談山神社の紅葉見物客でバスは超満員。タクシーで下居までいく。音羽観音寺(善法寺)まではけっこう急坂が続く一汗かく。お寺では「お菓つき銀杏まつり」で賑やかな事であった。銀杏の香りが鼻につく。ここから音羽山までも急な登りであった。団体パーティが多く頂上は休憩どころではない。石灯籠のある経ヶ塚山山頂も中高年の登山者が多い。熊ヶ岳にむかう途中、彼方に大峰の山々が見渡せた。紀伊榎本代表から「あれが山上、横が稲村、隣の尖っているのが大日」と教えられる。意外と大峰は近い、と理解した。熊ヶ岳の頂上も狭いがしばし休憩とする。ここで紀伊榎本代表と観音寺とのかかわりの話に耳を傾けた。ロマンある若かりし頃の物語であった。大峠から針道の集落に入ると今が盛りの紅葉に思わずカメラを向けた。15時過ぎ不動滝バス停着。記:翁長									
連番	424	例会No.	一般257	内容	和歌山・高森山、四国山、甲山 10周年記念山行・大阪湾を巡る 隠れ山シリーズNo. 1	実施年月日	2011/12/11	担当者	三原、翁長	
参加者	三原秀元、翁長和幸、松本明恵、寄川都美子、寺島直子、三浦清江、横内まみね、小杉美代子、岡本佳久、山本洋、西村美幸、西村晶、笠松マサエ、野口秀也、磯辺秀雄、堀木宣夫、福田直也、安本嘉代、安本昭久、谷村洋子、紀伊榎本博美、樺田克彦、小椋美佐								参加者数	23
担当者コメント	「大阪湾を巡る隠れ山シリーズ」の第1回目と言う事でもあり、多数の方の参加でにぎやかな山行となりました。高森山は大阪府山岳連盟が「大阪50山」に選んだ山ではあるが、標高が低く足の便も悪い為余り登られていない山です。バブルの頃には山麓に自然公園なども出来、高森山と四国山との間などは道も整備された様子でベンチや展望台なども残ってはいるが最近では手入れもされていないようです。取付点などにも道標もなく分かりにくく、案の定、先頭チーフのミスで尾根を一つ間違えたりしながら、西村リーダーのGPSに助けられ高森山にたどり着く。参加者の人には余分なアルバイトをしてもらうことになり申し訳ありませんでした。高森山はこじんまりとした頂上で大阪府で最も西端にある三角点のある山です。正面には淡路島が北から南へ横たわっているのがすごく大きく見える。四国山はもっと展望が良く近くには友が島や、名前の四国までかすかに見えている。眼下には広大な平原が広がっている。これは関西空港を作るときに山を切り崩して土を持って行ったらしく、後に工業団地でも作るつもりだったのか、今では進出する企業もなく今の日本の現状をまざまざと見せ付けられているようです。下山は林道通しに6Kmの道を、初冬のやわらかい日差しを浴びながら西ノ庄の駅に向かう。今日は時間の都合で甲山には行けませんが、本来大阪府県境に踏み跡程度でも道があれば500mも縦走すれば甲山にいけるのにと思わずにいられない。府岳連の力で大阪府県境大阪北部も含め全体にトレイルを実現して欲しいものです。記:三原									
連番	425	例会No.	一般258	内容	大和・葛城山 10周年記念山行・近畿の山EP E特選コース-2	実施年月日	2011/12/18	担当者	本郷、板谷	
参加者	本郷善之助、板谷佳史、樺田克彦、青木義雄、奥中種雄、安本嘉代、谷村洋子、堀木宣夫、安本昭久、松本明恵、保木道代、寄川都美子、寺島直子、小椋美佐、近藤さとみ、杉本栄子、田中和美、紀伊榎本博美、江本恭子、神阪洋子、田中智子、柴田弘子、和田敬子、笠松マサエ、安岡和子、福田直也、小杉美代子、長瀬茂正								参加者数	28
担当者コメント	EPE特選コースの選定にあたって、おなじみの山であってもよいからユニークなコースを選んでほしい、なおかつ誰でも参加できて、もちろん日帰りで・・・というような条件でした。あまり知られていないコースとなると交通の便が悪くなりがちなのでずいぶん悩んだ末の選定でした。大和葛城山といえば、ほとんどのEPEクラブ会員は普段大阪側から眺めているはずですが、奈良側の山麓は「葛城王朝」や「役行者の生誕地」等、多くの歴史の場となっており、また近代では司馬遼太郎の生誕地であり、作品にもしばしば登場する地域でもあり、歩いてみると興味が尽きない所です。今回はその一端をうかがえるコースであったと思います。あいにくの寒い冬空の元での例会で、一般例会としては少々長丁場のコースでしたが、皆さん元気に完歩していただきました。記:板谷									
連番	426	例会No.	OP160	内容	大峰・山上ヶ岳	実施年月日	2011/12/23	担当者	板谷、西村(晶)	
参加者	板谷佳史、西村晶、長瀬茂正、黒澤百合子、安部泰子、近藤さとみ、保木道代、寺島直子、小椋美佐、安岡和子、本郷善之助、川守田康行、宮平良雄								参加者数	13

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>今冬、最初の天寒波という予報どおり、寒い一日となりました。太平洋側は晴れとの予報でしたが、やはり山では日が射すこともなく時折小雪が舞う冬空が続きました。阿古滝道は今ではかなり踏み跡の薄い箇所もあり、それが積雪に隠されており、赤テープの標識を追ってルート探しながらの登山となりました。阿古滝近くで一時ルートを見失ったりして時間がかかったとはいえ、山頂までは時間不足の計画でした。ということで、またまた反省の例会となりました。皆さんの真冬を迎えるにあたって寒さと雪への心構え、アイゼンの感触を蘇えらせる・・には多少役に立ったのではないのでしょうか。 記:板谷</p>								
連番	427	例会No.	一般259	内容	新年ハイキング・和泉葛城山	実施年月日	2012/1/9	担当者	翁長、大西(恒)
参加者	<p>翁長和幸、大西恒雄、紀伊桒本節雄、紀伊桒本博美、奥中種雄、堀木宣夫、保木道代、安岡和子、小椋勝久、小椋美佐、近藤さとみ、寺島直子、柴田弘子、田中智子、笠松マサエ、横内まみね、秋田文雄、安部泰子、磯辺秀雄、板谷佳史、上原進一、大谷裕昭、岡本佳久、川崎喜美子、黒澤百合子、樺田克彦、神阪洋子、小杉美代子、齋藤容子、                  實操綾子、杉本康夫、杉山僚、杉本栄子、達健一、谷村洋子、西田保、西野勇治、西村晶、野原勇、藤田喜久江、真下好雄、榊田誠寛、松田芳治、松本明恵、三浦清江、三原秀元、宮平良雄、安本昭久、安本嘉代、山下登志子、山田春雄、山本洋、吉田伸實、寄川都美子、和田良次、和田敬子、和田都子</p>							参加者数	57
担当者コメント	<p>「いよやかの郷」の送迎バスで塔原まで送ってもらい、ここから和泉葛城山へのハイキングをスタートする。川沿いを道なりに進むと自然と山道へと導かれていく。葛城山への道標が出てくると、ジグザグに登っていくことになる。かつての葛城への参詣道のためか道はしっかりとしている。やがて灯籠の台座が残る広場・ピワ平に出る。尾根道を更に行き舗装された林道に合流、そのまま進む。道標に導かれて階段で尾根へと登り返すと、本州南限といわれているブナの原生林の道となる。立ち入り禁止の柵に沿って進むと、やがて木の階段道。登ると頂上の葛城神社に着く。神社を抜けて頂上広場へ向かう石畳の道端には、だんじりの前梃子が沢山奉納されていた(さすが泉州地元の山、安全祈願か?)。頂上南側には立派な紀泉高原スカイラインの舗装道路が通っている。頂上広場で昼食休憩。下りは舗装された牛滝林道を消え残った雪で滑らないように気をつけて下ってゆくと、やがて二十一丁地蔵のある町石道と出会う。林道を外れて町石道を下る。一丁ごとにある地蔵さんを横目に土留めのしっかりした急なジグザグの道を下ると又、牛滝林道と合流する。それを横切り林の中を一下りし、谷の堰堤下を通過して対岸に出る。吊り橋で渡り返してさらに進むと、やがて大威徳寺の境内に着き、このハイキングも終わりとなる。 記:大西(恒)</p>								
連番	428	例会No.	新年会	内容	2012年新年会・牛滝山「いよやかの郷」	実施年月日	2012/1/9	担当者	大西(恒)、翁長、本郷
参加者	<p>大西恒雄、翁長和幸、本郷善之助、紀伊桒本節雄、紀伊桒本博美、奥中種雄、堀木宣夫、保木道代、安岡和子、小椋勝久、小椋美佐、近藤さとみ、寺島直子、柴田弘子、田中智子、笠松マサエ、横内まみね、秋田文雄、安部泰子、磯辺秀雄、板谷佳史、上原進一、大谷裕昭、岡本佳久、川崎喜美子、黒澤百合子、樺田克彦、神阪洋子、小杉美代子、齋藤容子、                  實操綾子、杉本康夫、杉山僚、杉本栄子、達健一、谷村洋子、西田保、西野勇治、西村晶、野原勇、藤田喜久江、真下好雄、榊田誠寛、松田芳治、松本明恵、三浦清江、三原秀元、宮平良雄、安本昭久、安本嘉代、山下登志子、山田春雄、山本洋、吉田伸實、寄川都美子、和田良次、和田敬子、和田都子、青木義雄、津川洋子、徳平忠久、宮平由紀子、宮平晶子、和田晴次、岩垣寿治、仙谷経一郎</p>							参加者数	66
担当者コメント	<p>今年の新年会は例年とは違ったものになりました。1ツは会場が長年続いた「紀伊見荘」から岸和田の「いよやかの郷」に変わった事、もう1ツは総会が1部と2部に分かれて実施された事です。1部はEPEクラブの創立10周年記念事業についての説明的もので、2部は例年行われている新年の宴です。まず、会場となった「いよやかの郷」は「ほっこり」とした温泉と、ちょっとしたホテル並みの設備・サービスで、なかなか良かったように感じました。送迎バスで葛城山の登山口となる塔原まで、送ってもらえたのも有難い事でした。さて、本題の総会は代表挨拶の「10周年事業について」から始まり、会計報告までは例年通り進み、代表挨拶にあった記念事業の概要説明へと続けました。断片的に発表されていた各イベントの全体の報告・説明があり、一時は会場がワーッと盛り上がる様子もありました。2部の新年の宴では和田晴次さんの乾杯の後、記念事業への思いを語りあったり、1年の思い出話に花を咲かせたりと雰囲気盛り上がりしました。泉州山岳会の副会長や、長野県の白馬村から参加していただいた会員、初めての参加となった泉州山岳会の古い山仲間などの紹介があり、楽しいひと時を過ごしました。 記:翁長</p>								
連番	429	例会No.	一般260	内容	播州・伊勢山 10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズ No.2	実施年月日	2012/1/15	担当者	紀伊桒本(節)、小椋(勝)
参加者	<p>紀伊桒本節雄、小椋勝久、谷孝司、笠松マサエ、横内まみね、岡本佳久、川崎喜美子、樺田克彦、紀伊桒本博美、堀木宣夫、保木道代、近藤さとみ、福田直也、谷村洋子、西村晶、西村美幸、三原秀元、安本昭久、安本嘉代、内杉安繁、青木義雄、寄川都美子、岸田暎子</p>							参加者数	23
担当者コメント	<p>大阪湾を巡る隠れ山シリーズ第2回は西へ播州姫路まで足を伸ばすことになった。目標の伊勢山は、尾根続きに空木(うとろぎ)城を控え、東の置塩城との見張り台の役目をしていたことから、おそらく眺望は良いだろうと想像していた。でも大阪湾は見えるだろうか? 播磨灘は間違いなく見えるのだから、それに続く大阪湾も望めなくはないだろう、その程度の、これは遊びの世界である。それでは隠れ山の要素はあっただろうか?、まずは参加者の皆さんは誰もが初見のようで、かつ低山のヤブ山と予想されていたから、少しは意外性はあったと思う。「神座の窟」をとりまく岩壁は、隠れ山と呼ぶに相応しい風景で、せめて周囲の探索ぐらいはやってみたいと思わせた。播但を巡る山々は 少しは遠いとは言え、これを機会に歴史探訪の他にも手を染めて行きたいと思う。冬晴れの天気にも恵まれ、大勢の仲間にも恵まれ、痛快な遊びの世界にも誘ってもらえる小さな魅力ある山々にも恵まれたことを、合わせて感謝しましょう。 記:紀伊桒本(節)</p>								
連番	430	例会No.	一般261	内容	南葛城山(922m)より根古峰 10周年記念山行・近畿の山EP E特選コース-3	実施年月日	2012/1/22	担当者	三原、本郷
参加者	<p>三原秀元、本郷善之助、樺田克彦、近藤さとみ、岸田暎子、杉本栄子、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子、田中智子、奥中種雄、寺島直子、宮平由紀子、柴田弘子、小椋美佐、松本明恵、磯辺秀雄、福田直也、寄川都美子、吉田伸實、紀伊桒本節雄、紀伊桒本博美、江本恭子、小杉美代子、安岡和子</p>							参加者数	25

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

担当者コメント	昨日の曇りも回復して登山日和となる。滝畑ダムより紀見峠までの大阪府県境の尾根に行く。南葛城山(922m)は和泉山脈の最高峰ではあるが展望もなく顕著なピークでもないの面白みに欠けるが、自分達の住んでいる大阪府の境界を知っておくのも大事なことはないだろうか！今日は取り付きから結構急登もありロングコースで14Kmくらいあったと思うが特に女性の人たちは元気で、E. P. E. クラブで経験を重ねられて年齢に関係なく、入会された時より益々遅くなっていくのには感心させられました。これからも10周年記念山行いろいろ続いておりますが頑張ってください。 記:三原									
連番	431	例会No.	一般262	内容	淡路島・伊勢ノ森～妙見山 10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズ No.3	実施年月日	2012/1/29	担当者	板谷、翁長	
参加者	板谷佳史、翁長和幸、小椋美佐、樺田克彦、本郷善之助、西田保、西村美幸、紀伊本博美、杉本栄子、寺島直子、西村晶、岡本佳久、堀木宣夫、紀伊本節雄、寄川都美子、近藤さとみ、岸田暎子、谷村洋子、安本昭久、安本嘉代、柴田弘子、田中智子、笠松マサエ、奥中種雄、神阪洋子								参加者数	25
担当者コメント	大阪湾を巡る・・・ということになると、淡路島の山を加えたいと思い、過去に例会が行われている諭鶴羽山と先山以外から選定しました。しかし、車道歩きがほとんどの山で、その点では興味半減なのですが、道々の照葉樹林や山頂付近の原生林、そしてなによりも大阪湾や明石海峡の展望に期待しました。その点では満足して頂けたか、と思います。妙見山からの下りのみ、山道らしいコースでした。下山口である釜口小井のバス停近くの地元の人によると「あんたら、あんな道よう下ってきたな」ということでしたので、車道が出来た今では使う人もいないようです。 記:板谷									
連番	432	例会No.	OP161	内容	東北スキー場めぐり、その5 福島・アルツ磐梯	実施年月日	2012/2/7～10	担当者	紀伊本(節)、大西(恒)	
参加者	紀伊本節雄、大西恒雄、西村晶、西村美幸、本郷善之助、笠松マサエ、上原進一、山下登志子、宮平由紀子、内杉安繁、安本昭久、安本嘉代、紀伊本博美								参加者数	13
担当者コメント	東北大震災のあと、この企画を立てた頃はまだ憚るところがあって今年は上越の苗場スキーときめて発表した。しかし日が経つほどに様々現実には複雑となる。なんと、同じ福島県のスキー場では例年の修学旅行団体の9割方がキャンセルになったという。そのなかで星野リゾートの経営するアルツ磐梯スキー場は敢然と立ち上がった。東北復活と地域の雇用確保をかかげて今シーズンの開場を昨秋に早々と宣言したと報道された。やるじゃないか、事実今シーズンの東北各地のスキー場は(苗場も含めて)旅行社のバック企画がばっさり縮小されていた。あれやこれやで、苗場から磐梯へ、おそらくEPEとしては始めての行き先変更の例会となった。幸いなことに参加者皆さんに同意を得たことで「東北スキー場めぐり その5」が成立したと思う。アルツ磐梯スキー場は、磐梯山(1819m)から西へ約4キロ、猫魔ヶ岳(1404m)の南西面に位置するので、本来ならスキーゲレンデとしてあまりいい雪質は望めないはずだ。人口降雪機が目立つほど設置されていたのも頷ける。ただ今回は滞在中、気温マイナス7度が続く幸運にめぐまれ、夜半の雪が新雪となり素晴らしい舞台を提供されたのはうれしいことである。大震災の爪あとは、やはり意外なところまで広がっている。東北復活の鍵は、我々ひとり一人の手にあることをあらためて自覚できた。同年輩の地元スキーヤーが立ち止まって「大阪から？」よくまあ来てくれたと喜ばれたのは印象に残った。「なぜ いま東北か、」これは数十年前に山岳会の会誌を飾ったテーマだが、今また別の意味でもう一度アピールしよう。「東北の山へ行こう！」我々が示すせめてもの心意気である。 記:紀伊本(節)									
連番	433	例会No.	OP162	内容	大峰・日本岳と笠ノ窟尾根	実施年月日	2012/2/11～12	担当者	板谷、長瀬、安部	
参加者	板谷佳史、長瀬茂正、安部泰子、黒澤百合子、寺島直子、小椋美佐、保木道代、柴田弘子、宮平良雄								参加者数	9
担当者コメント	2月11日 和佐又口から2時間近い車道歩きを覚悟していたが、四輪駆動車でない車は少々手こずってしまったものの、大変ラッキーなことに、和佐又ヒュッテの駐車場まで車を上げることができた。快晴に恵まれたこともあって、みんな嬉々として笠ノ窟への雪道を辿る。時間を稼いだぶん、予定外に大普賢岳への登路途中まで登って快晴の大展望が味わえたうえ、日本岳へのルート偵察が出来てしまった。大峰ファンにはおなじみの笠ノ窟で静かな冬の大峰の一夜となった。2月12日 快適なテント場を後に、日本岳の科尔へ、ここから日本岳への登り。この連休で大普賢岳は多数の登山者を迎えているが、もちろん日本岳へ向かう者は皆無。我々のトレースをつけて行く。といっても無雪期には明瞭な踏み跡があり、古びたフィックスザイルや標識が残されているのだが。山頂から笠ノ窟尾根の下降が今回の核心部である。山頂を過ぎるとすぐ切り立った壁の上に出て、懸垂下降しないと進めない。更に樹林帯の中とはいえ、両側が切れた岩稜の下降が続く。ザイルをフィックスしながら慎重に下降していく。やがて傾斜の緩んだ科尔に出て、下降を打ち切ることに。岩稜の裾をトラバースして行くと、期待通り笠ノ窟下部の登山道に出ることができ、緊張から解放された。 記:板谷									
連番	434	例会No.	一般263	内容	明神山～寺山 10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズ No.4	実施年月日	2012/2/12	担当者	三原、秋田	
参加者	三原秀元、秋田文雄、奥中種雄、青木義雄、紀伊本節雄、紀伊本博美、西村晶、西村美幸、岡本佳久、堀木宣夫、西田保、真下好雄、寄川都美子、岩崎真美子、吉田伸實、樺田克彦、野原勇、安本嘉代、谷村洋子、喜多田恵美子、和田敬子、近藤さとみ、杉本栄子、三原知未、三原博子、神阪洋子、小杉美代子、福田直也、岸本久仁雄、杉本康夫								参加者数	30

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>第四回大阪湾を巡る隠れ山シリーズは天候にも恵まれて、大阪湾を十分見てきました。このコースは生駒連山と金剛連山の間の区間で、大阪府県境でもあるが地図上の境界線には登山道の無いところも多くあり、できるだけ歩きやすいところを探していくこととする。まず起点の河内堅上駅より明神山をめざす。採石場や大きな工場の間を抜けて、明神山の裾をまく道をゆく。笹を刈り払いながらの茂った道である、しばらく行くと王子方面から来る立派な参道に出る。ここからは山頂まではすぐで頂上には立派な祠や展望台もあり大阪市内から六甲連山まで見渡せる。ここの三角点は地面より低く、埋め込んだコンクリートボックスのふたを開けた中にある。三角点マニアの人には珍しくてきつと喜ぶ場所であろう。寺山への縦走は県境尾根どうしに送電線に沿って立派な道が続いているが横道がいくつもあって地図をよく見なければ解かりにくい尾根である。登山道はいったん国道165号に出て寺山に向かうのであるがこれもまた地図上の道は藪でこの大人数では通過は難しいので、事前の下見で大阪教育大学の中からの登山道がベストであるのが解っていたので、校内を通過させてもらう事を申し入れておいたおかげで快く了解してもらった。正門より標高差100m以上のキャンパスまでエスカレーターのある珍しい大学である。これを利用してもらい、社会見学も兼ねたユニークな登山で悠々と寺山へ登頂する。途中の展望は最高で大阪湾から堺の臨海地帯まで見渡せ時の経つのも忘れる様だ。上ノ太子駅への下山道は、地図には出ているが踏み跡程度の薄暗い谷道を下りぶどう畑の農道に出て、まだ日の傾かないうちに上ノ太子駅に着く。大阪近郊にも探せばまだまだ静かていい山があるので、常に探究心を持って未知の山に向かって欲しいと思います。 記:三原</p>								
連番	435	例会No.	一般264	内容	京都北山・天ガ岳	実施年月日	2012/2/19	担当者	野原、杉本(康)
参加者	野原勇、杉本康夫、笠松マサエ、寺島直子、小椋美佐、保木道代、杉本栄子、安本嘉代、寄川都美子、柴田弘子、安本昭久、堀木宣夫、福田直也、樺田克彦、岸田暎子、谷村洋子、奥中種雄、小杉美代子、紀伊莚本節雄、田中智子、近藤さとみ							参加者数	21
担当者コメント	<p>今日2月19日は二十四節気という「雨水」だそうだ。「陽気地上に達し、雪氷とけて雨水となればなり」・・・この頃から寒さも峠を越え、空から降るのが雪から雨に変わるといことだそうだ。今日は天候にも恵まれ、雪はもちろん雨の心配もない。風もなく、登りでは汗ばむほどの陽気だが、時折り枝に積もった雪が頭上に落ちヒヤッとす。天ガ岳頂上での眺望は樹林に囲まれてまったくないが、歩行中木々の間から注ぐ木漏れ日は登山道周りの10~20cmの積雪に美しく映えていい感じ。京都北山の入門コースということだけあって、他のグループを抜いたり抜かれたりしながらの山行となった。このコースは標識も多く、危険箇所もなく、和気あいあいと大原から鞍馬への楽しい山歩きの1日を満喫しました。 記:野原</p>								
連番	436	例会No.	一般265	内容	ベーシック登山No.11 北摂・ポンポン山	実施年月日	2012/2/25	担当者	秋田、小椋(勝)
参加者	秋田文雄、小椋勝久、吉田伸實、岡本佳久、青木義雄、紀伊莚本節雄、谷村洋子、和田良次、和田敬子、上原進一、新里トヨ、寄川都美子、寺島直子、岩崎憲代、三原博子、三原知未、小杉美代子、田中和美、藤田喜久江、和田都子、實操綾子、宮地恵美子、樺田克彦、紀伊莚本博美							参加者数	24
担当者コメント	<p>今日は朝から雨になり参加者も少ないと思って集合場所へ行くと、24名の参加で驚く。出灰バス停に下車、初めての方もおられるので自己紹介を済ませ雨の中、車道(出灰川沿い)をポンポン山へ。出灰からの登山口尸陀寺跡(室町時代中期に一休禅師が開創した草庵跡らしい)へ、これより急な登りになる。約30分で尾根筋に、緩やかな登りになり、間もなく頂上に。雨の中道も枯葉で泥濘も無く全員元気にポンポン山へ。上はベンチやテーブルがあり、雨風をしのぐシートもありここで昼の休憩をする。(この山は正しくは加茂勢山と呼ばれていたが、頂上に近づくと足音がポンポン響くのでこう呼ばれている。)天気が良ければ360度の展望を楽しめるが、残念ながらまたの機会にして早々に釈迦岳へ。ポンポン山が高槻市の最高峰なら、釈迦岳は島本町の最高峰(631.0m三等三角点)だが展望は無い。山名は水無瀬川の最上流部で貴重な水源をお釈迦様が守ったことから名付けられたと伝えられている。雨も降っているので、大杉四分岐から川久保尾根を下山、この尾根は景色も無く道標も少なく、交通の便も悪いので利用する人も少ない。そのかわり他のハイキングコースに比べて静かな山歩きが楽しめるコースだ。雨も止み落ち葉道をのんびりと下山する。バスの時間があるかと思っていたが、尾根の終わり頃に時間が心配になる。思ったより尾根が長く、滑る斜面で手間取り、下山口からバス停まで急ぐ羽目になる。全員無事にバス停へ、ここで解散する。雨の中は初めてのベーシック登山、(初めて参加の方を含め)天気の悪い日に皆さん元気に山行されたことに感心しました。 記:秋田</p>								
連番	437	例会No.	OP166	内容	第10回スキーカーニバル イン 北海道・サホロ	実施年月日	2012/3/7~10	担当者	紀伊莚本(節)、西村(晶)
参加者	紀伊莚本節雄、西村晶、上原進一、山下登志子、山田春雄、達健一、和田良次、和田敬子、寺島直子、杉本栄子、安本昭久、安本嘉代、紀伊莚本博美							参加者数	13
担当者コメント	<p>第10回スキーカーニバルが無事終了しました。これまでの多くの参加者皆様のご協力に心から感謝いたします。10回の開催の内、8回が北海道でしたから、実のところ今回で北海道のリゾートスキー場は概ね走破してしまいました。ニセコ、フラノ、ルスツ、キロロ、等など、さて次回から何処へ行くのかと悩むところです。しかしよく考えてみますと、この企画が10年、10回と継続できたのは、北海道の大型リゾートスキー場の魅力に負うところが大きいと思います。その原点は、ドアーツウダーにあるでしょう。広大な斜面で存分にスキーを楽しんだあと、ドアー1枚ぐれば温泉に癒され、食事に満たされ、あとはぐっすり眠れるベットが待っている。この満喫感こそ、また次の新たな原動力を生み出していたのではないのでしょうか。そこで、次回のスキーカーニバルから、そのテーマを『もう一度行ってみたいあのスキー場』として再スタートしたいと思います。このテーマに相応しい内容であれば、国内外を問わず北海道にこだわることもありません。スキーの醍醐味は本来どこにあるかと言えば、その答えはなかなか難しいと思います。山やだから、老いたり云えども山野を掛け巡る山スキーが一番とする人。あるいはバッチテストの上級資格をとればこそその人もあるでしょう。また、競技スキーこそ総てのスキーの代名詞と聞かされたこともあります。でも考え悩むことはありません。私たちは今、現にスキーを楽しむ味わい尽くしています。これこそ体力や年齢に応じたスキーの醍醐味といえるでしょう。今年よりも来年、来年よりも再来年、もっと楽しく、もっと力強く、もっと優雅に滑りたい、これが私たちの熱い熱い切なる願いです。 記:紀伊莚本(節)</p>								
連番	438	例会No.	一般266	内容	岡山・泉山	実施年月日	2012/3/11	担当者	翁長、小椋(勝)
参加者	翁長和幸、小椋勝久、長瀬茂正、柴田弘子、田中智子、奥中種雄、西田保、寄川都美子、神阪洋子、黒澤百合子、杉本康夫、近藤さとみ、樺田克彦							参加者数	13

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>泉山は私にとっては思い出深く、この地方にとっては象徴的な山で地元小中学校の校歌にも歌われている身近な山です。今年は例年になく、雪が多く3月中旬になっても1m近く雪が残っているとの情報、その上天気予報は週末から強い冬型になるとの事。急ぎょ冬山装備に・・泉嶺神社の駐車場に着いた頃には雪が降り始め、期待と、不安の中での出発。しばらく樹林帯を歩き稜線(福ヶ峠)に出た頃から深い雪になりラッセルとまではいかないものの、キックステップで慎重に歩く、途中風のない所で昼食をとり井水山(1150m)に着くころにはガスの切れ間から青空が見えるようになった。これも私の気持ちがこの山に通じたのかなど勝手な思いを巡らせながら歩く。本来ならば井水山から中央峰を経て泉山に向かう稜線は笹原のきれいな登山道だが今回は雪に埋もれて笹原は見えなかった。代わりに素晴らしい雪山の風景が広がり疲れも忘れさせてくれました。稜線を思い思いに風景を楽しみながら泉山に到着、時間が気になり早々に下山。途中、この山の岩稜を本尊としている泉嶺神社に参拝し帰途に就く。今回泉山は思いがけず、冬山の気分を味わうことができた上、故郷の山を紹介し喜んでいただいた事を本当に嬉しく思っています。また鏡野町役場のSさんには多数の情報を送って頂きありがとうございました。記:小椋(勝)</p>									
連番	439	例会No.	OPI64	内容	奥越・平家岳	実施年月日	2012/3/18~20	担当者	板谷、長瀬	
参加者	板谷佳史、長瀬茂正、柴田弘子、保木道代、笠松マサエ、黒澤百合子、村浪義光、川守田康行、宮平良雄							参加者数	9	
担当者コメント	<p>3/18~19 昨年の甘い計画を反省して、今年は前夜に箱ヶ瀬橋で泊まっておくことにした。またまた雨の入山となり、天気については昨年の二の舞か?と心配したが翌朝明けてみると、予報とは裏腹に早く回復しそうな雲行きに内心小躍りしながら出発する。登山口までの雪の林道歩き、更にルート下部の腐った雪のラッセルと重荷に体力消耗しながらも順調に高度を上げて、予定通り小平家付近の絶好地に TENT を張ることができた。夕方になると天候は更に雲一つ無い快晴となり、明日は会心の頂上アタックが期待できそう。3/20 重荷に喘いだ昨日とは違い、軽装で頂上アタックに出る。冷え込みで雪質は締まってアイゼンでの快適な登山ができる。無雪期の登山道は稜線を忠実に辿って、井岸山を経由して山頂に至るが、雪で埋まった今は山頂直下のコルめがけて直接トラバースしていくことが出来た。TENT 場から山頂まで50分ほどであった。福井の山々を始めとして、白山を巡る山々、御嶽と更に遠く北アルプス、南方に目を転じると奥美濃の山々、その先には遠く伊吹山までと360度の大展望だ。昨年の失敗を挽回できた嬉しさもあるが、何より他に登山者が皆無なこと今回の山行の価値を感じて感激もひとしおだ。昨年も同様だったが箱ヶ瀬橋を渡った地点から先は、全く登山者が入った形跡は無く、おそらく一冬を通じて入山者は稀なようだ。記:板谷</p>									
連番	440	例会No.	一般267	内容	滝畑の無名峰(432mと434m)	実施年月日	2012/3/18	担当者	紀伊塾本(節)、西村(晶)	
参加者	紀伊塾本節雄、西村晶、福田直也、川下淳子、吉田伸實、杉本栄子、真下好雄、和田良次、和田敬子、寄川都美子、寺島直子、三原博子、三原知未、樺田克彦、紀伊塾本博美、西村美幸、谷村洋子、安本昭久、安本嘉代							参加者数	19	
担当者コメント	<p>面白い例会を創ろう、ユニークな例会を組みたい。それは、参加者に楽しんで貰えるばかりではなく、つまるところ企画者、リーダー自身の喜びでもある、そう思いながら常に例会企画に取り組んでいます。しかし、ときには今日のように、雨に祟られると途端にレベルアップの状況に迫られます。不慣れな方には、今日のハイキングは少しきつかったかもしれません。例会作りはこれで結構難しいものです。さて滝畑は、白洲正子氏の著書「隠れ里・・・」にとりあげられています。地理的にみても河内の山の西南の隅っこ、しかも、その咽元を格式高い金剛寺(南北朝時代の南朝の行宮)にしっかりと抑えられています。今日も歩いてきた尾根筋には、金剛寺の寺領を示す石標が点々と見られました。かつて滝畑はその寺領であったことは確かです。つまり、地域全体が相当昔から、隔離された「隠れ里」の条件を備えていたと言えるでしょう。戦国末期には小田原北条氏落城の後、当主北条氏直はこの滝畑に幽閉され、ここで亡くなっています。それだけこの地域の閉鎖性が高かったことを示しています。有難いと思うことは、今日実際にその道の無い国境の尾根を歩いてみて、霧に包まれ滝畑の「隠れ里」的要素をあらためて実感できたことです。過去、EPEの例会として滝畑を挟む右岸の尾根も、旗倉山から一徳坊山、権現山から梨の木峠。さらに、地域全体を取り巻く三国山、灯明岳、南葛城山、岩湧山など、それらに至る数多くの谷筋含めると数十回にわたり取り上げてきました。しかしそれらの実績の大部分は個別のもので、何の脈絡も無く見てきましたが、ここであらためて思うことは、これらの実績を総合してこそ、はじめて滝畑の「隠れ里」的全体像が本物の実感として浮んできたと思います。これは大きな意義のある実証です。有難いことです。他にも、このような楽しくユニークな領域が身近な山にあるかも知れません。そう思うとEPEの例会はどの分野でも、まだ種切れするどころか、いよいよこれからが佳境に入ります。皆さん、元気で健康であるかぎり、EPEクラブの存在を高めましょう。そしてハイキングの味わいを楽しみましょう。記:紀伊塾本(節)</p>									
連番	441	例会No.	一般268	内容	京都・皆子山 10周年記念山行・近畿の山EP E特選コース-4	実施年月日	2012/3/25	担当者	三原、大西(恒)	
参加者	三原秀元、大西恒雄、宮平由紀子、奥中種雄、寄川都美子、寺島直子、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美、堀木宣夫、福田直也、本郷善之助、田中智子、樺田克彦、安岡和子、真下好雄、保木道代、江本恭子、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代、岸田暎子、谷村洋子、近藤さとみ							参加者数	23	
担当者コメント	<p>この度の皆子山例会はEPEで7年前に実施した事のあるコースですが、季節を変えてEPE特選コースとして計画を立てました。しかしこの時季、今年は例年になく積雪が多く足尾谷の状態が心配なので偵察に入った結果、案の定丸木橋は殆ど流されたり、水量が多く膝上くらいまでの徒渉を、何度もしなければならぬ事が判明したので、今回は下山ルートの寺谷から皆子山を往復する事に変更しました。平でタクシーを降り、寺谷の出会いの丸木橋を一人づつおそるおそる渡る。谷筋は昨日からの季節外れの寒波で冬の沢登り状態になってしまっている。本来は薄暗い谷ではあるが積雪も多く霧氷もしつかり付いて明るい谷筋を行く事となる。最後はきつい斜面を登れば頂上直下の南側の尾根に出て皆子山に到達する。頂上は完全に雪に埋まっており、視界も悪く、風も強く雪庇の陰での遅いランチタイムとするが、早々に切り上げて下山とする。大きな滝などはない谷でしたが積雪期の谷歩きを経験できた事を今後の山行のプラスにしてください。雪解けでぬれてつるつるの8メートルの丸木橋、足下は増水した激流23名が無事渡り終えたが、リーダーとして唯見護るだけしか出来なかったが、それで本当によかったのか、考えさせられる山行でした。記:三原</p>									

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

連番	442	例会No.	一般269	内容	六甲・菊水ルンゼから菊水山 10周年記念山行・大阪湾を巡 る隠れ山シリーズ No.5	実施年月日	2012/4/1	担当者	板谷、安部		
参加者	板谷佳史、安部泰子、本郷善之助、村浪義光、長瀬茂正、奥中種雄、神阪洋子、田中智子、柴田弘子、 寄川都美子、小椋美佐、寺島直子、近藤さとみ、小杉美代子、西村晶、西村美幸、安岡和子、黒澤百合子、 樺田克彦、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、福田直也、岡本佳久、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、 岸田暎子、保木道代								参加者数	28	
担当者 コメント	着工:1972年、竣工:2008年、石井ダムの工事期間中は菊水ルンゼや妙号岩には近づくことが出来ませんでした。ダム 完成後訪ねてみるとダム湖の道路から簡単に取り付くことが出来ると分り、記念山行に加えようと企画しました。しかしいざ実 施となると、30名近い参加者を担当者2名で登らせることになるのかも?と心配したのですが、幸い紀伊莚本代表以下、か つての泉州山岳会クライマーの面々が顔をそろえてくださり、終始サポートして頂くことができ杞憂に終わりました。ご協力に 感謝いたします。菊水山頂からの下降路にとった菊水尾根はルンゼの左岸尾根とも称すべき尾根で、さすがに急峻ですが 良く踏まれており展望も良く昔からあった道のようにです。更に帰路に使ったイヤガ谷東尾根は(中背と表記された地図もある) 一般例会No. 251「鶴越を巡る山々」で使われた登路と同じです、六甲の縦走路等とは違いめったに人影を見ない静 かで良いコースです。 記:板谷										
連番	443	例会No.	一般270	内容	ベーシック登山No.12 京都・大文字山	実施年月日	2012/4/7	担当者	秋田、野原		
参加者	秋田文雄、野原勇、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、青木義雄、三原博子、三原知未、和田都子、田中 和美、實操綾子、和田良次、和田敬子、岸田暎子、上原進一、山下登志子、吉田伸實、三浦清江、山本 洋、齋藤容子、磯辺秀雄、堀木宣夫、杉本栄子、喜多田恵美子、岡本佳久、樺田克彦、横内まみね、西 田保、小杉美代子								参加者数	28	
担当者 コメント	今回は京都で一番の人気で手軽なハイキングコース大文字山へ。過去に何回か例会で山行されたが、天候に恵まれず今 回はそのリベンジをかね桜の舞う京都の町を一望すべく、京都市営地下鉄東西線蹴上駅に下車。蹴上駅一番出口より左 に50m行くと日向大神宮の入り口を進むと京都と琵琶湖を結ぶ水路(琵琶湖疎水)に。水の確保と船での交通を図るため 明治時代に建設された。インクライン「船が上がれない急な坂を貨車を使って引っ張り上げるための線路の跡である。」此れ より日向大神宮へ向かう。長い石段を登ると尾根道に京都一周トレイル35に、ここまでが急坂でひと汗かく。主尾根を京都 一周トレイルの標識に沿って広い登山道を樹間に山科方面を眺めいくつかの分岐を過ぎて、登ると「東山45」に着く。大文 字山は10分程で山頂だ。頂上には三角点があり少し開け京都市内が一望できる。昼食後EPE創立10周年記念事業の 一環としての募金協力のお礼と新たに、ベーシック登山にも報奨賞品がでる事に成りその受賞対象の説明をする。肌寒くなり 、山頂を後に少し下るとよく踏まれた道に突然に目の前が広がり唖然とする素晴らしい展望に、ここが大文字山の火床の 頭に着く。大の字の交点の火灰で約300mの高さで眼下に京都市街や大阪を一望する大パノラマには感動する。私の知る 限り京都市内を一望するには他の山は比較にならないだろう。ここで大文字に詳しいガイドのような人に大文字の説明や五 山の送り火の場所「大文字・松ヶ崎妙法・舟形万灯笼・左大文字・鳥居形松明」など説明して頂く。なごり尽さない景色を後 に下山。銀閣寺へは広い道を下ると銀閣寺の山門の前に出る。哲学の道は、春は桜、秋は紅葉と今年は七分咲き疎水に 沿って、散歩と思っていたが、あまりにも観光客が多く28名散歩出来ないのここで解散とする。大文字の火床の展望は チャンスがあれば一度見に行く価値はあると思います。哲学者・西田幾多郎がこの道を散歩しながら思案にふけたことか ら「哲学の道」と言われている。しかし今日は人・人でイメージが悪く残念でした。 記:秋田										
連番	444	例会No.	OP165	内容	熊本・阿蘇中岳、高岳と根子岳 東峰 ハイキング+歴史探訪No. 20 共催 10周年記念山行・悠々ツアー 登山シリーズ・その1	実施年月日	2012/4/13~15	担当者	小椋(勝)、三原、 紀伊莚本(節)		
参加者	小椋勝久、三原秀元、紀伊莚本節雄、岸本久仁雄、安本昭久、樺田克彦、畑山禮子、柴田弘子、田中 智子、笠松マサエ、宮平由紀子、横内まみね、保木道代、紀伊莚本博美、川崎喜美子、寄川都美子、安 本嘉代、杉本栄子								参加者数	18	
担当者 コメント	4月13日 熊本城、田原坂 熊本空港に着いた頃からあやしい空模様、天気予報では午後から雨との事。急きよ15日の予 定に変更熊本城に。熊本城に着いた頃には雨が降り始める。熊本城は加藤清正が築城し幕末まで細川家の居城として 使われていた。西南の役に薩軍の攻撃に官軍が籠城し激しい戦が行われました。その時の戦禍で一度延焼したものの、 昭和35年に市民の協力により鉄筋コンクリートの天守閣を再建しました。堅固な城塞は見事なまでの城構え、当時の出来 事を偲びながら三々五々城内散策。天守閣に上がり熊本の街から田原坂方面を見つつ当時の戦いの激しさを感じる。熊 本城を後に田原坂に着いた頃には本格的な雨、まさに『雨は降る降る人馬は濡れる・・・』の歌通り当時を思い出させる格 好の条件となった。田原坂は長さ1.5km、標高差60mのゆるやかな坂。南下して熊本城を目指す官軍連隊とこれを阻止 せんとする薩軍が、明治10年(1877年)3月4日から17昼夜、一進一退の攻防を繰り返し1万人余の戦死者を出した、西 南の役最大の激戦地である。弾痕の家を見ながら田原坂資料館へ、資料館ではボランティアの上田さんの案内のもと、絶 妙な語りと一緒に神妙な面持ちで聞き入る。当時の若者たちはどんな気持ちだったのかどんな事を考え死んでいったのか、 しばし感傷に浸る。ホテルへのバスの中、皆で田原坂の民謡を合唱、資料館で聞いた激しい戦闘を思い出し、『雨は降る降 る・・・シャカホイ、シャカホイ』雨の中、フレーズがいつまでも心に残る。										

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>4月14日 根子岳 ホテルから高岳方面を見ると、昨夜からの雨も上がり曇り空ではあるものの時より晴れ間も見えるまずまずの登山日和。早々にホテルを出発、途中行動食を調達し、箱石峠下部の登山口へ。登山口に差し掛かる頃からガスが現れ始める。視界の無いまま釣井尾根を登る。途中から雨に濡れた火山灰の堆積した登山道、滑りながら登る登山道は中々きつく、視界も無い為、皆無口になり黙々と歩く。東峰に着いたが相変わらず視界は皆無 霧の中昼食を摂るが皆さんこんな条件の下でも笑い声のでてくる。つくづく元気だなあーと感心する。視界ゼロと悪路の為、予定していた東峰から天狗の丸往復を予定変更しそのまま下山。大戸尾根の下山道も登りと同じ悪路、足元を注意しながら下るが転ぶ者が続出した。途中ニュージーランドから来たと言う若者に出会い、それぞれ身振り手振りで話す。またまた、皆さん若いなと感心させられる。上色見に着く頃には先ほどまでの霧も晴れ、目の前に絶景が現れる。今までの苦労も忘れ休憩。牧草地帯を歩き登山口へ向かう。誰からともなく歌声が出てくる。本当にすばらしい景色だ。東峰からの景色を逃した事と、時間がある為、大観峰へ大観峰からの阿蘇の景色に皆感激する。夕方、ホテルの展望風呂から根子岳、高岳の展望を楽しみ、疲れを癒す。</p> <p>4月15日 高岳 昨日とは打って変わって快晴、最終日にこの天候はやはり日頃の行いが良いのかと思いながら仙酔峡へ。仙酔峡駐車場から見上げる高岳は高く、この尾根を登るのかと昨日の酒が残る頭で考える。歩き始めると噴火でできた大小の石で覆われた登山道、日差しがきつく日陰の無いので歩きにくく長い登り坂！バカ尾根とはよく言ったものだと感心する。中腹まで差し掛かると道の悪さにも慣れ少しは歩きやすくなる。後ろを振り返ると阿蘇の雄大な景色。その景色の中、休憩を取る。昨日と大違い本当に気持ちが良い。ただっ広く石ころだらけの尾根をルートを探しながらの登り道。昨日来ていたらと思うと冷やりとする。稜線に出ると360度の展望、眺めの良い事と景色に心も緩んだのか、高岳に向かってワイワイガヤガヤと大きな声でしゃべりながら歩く。高岳に着き昼食、高岳を後に中岳へ中岳に着くと阿蘇の火口群が目の前に現れる。中々見ごたえのある風景。中岳から砂千里ルートで昨日登った根子岳を見ながら下山する。浮石の多い登山道を注意深く下山し、砂千里からロープウェー西口へ。火口見学後阿蘇山上駅駐車場へ到着、バスに乗り帰途に着く。今回の企画については皆さんから多くの助言、協力を頂きありがとうございました。まだまだ反省するところが数多くありますが、おかげ様で楽しい山行ができたことを心から感謝します。 記:小椋(勝)</p>									
連番	445	例会No.	一般271	内容	弥十郎ヶ岳	実施年月日	2012/4/22	担当者	野原、杉本(康)	
参加者										
担当者コメント	雨天中止									
連番	446	例会No.	一般272	内容	鈴鹿・御在所岳 10周年記念山行・近畿の山EP E特選コースー5	実施年月日	2012/4/29	担当者	三原、本郷	
参加者	三原秀元、本郷善之助、櫻田克彦、福田直也、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美、田中智子、神阪洋子、奥中種雄、寄川都美子、寺島直子、近藤さとみ、岸田映子、安本嘉代、小椋美佐、西村晶、西村美幸、江本恭子、保木道代、小杉美代子、野原勇、和田敬子、和田良次、堀木宣夫、長瀬茂正								参加者数	25
担当者コメント	<p>ゴールデンウィーク前半の休日で天気にも恵まれて、山ガール、山ボーイや家族づれ等で山は超満員でした。中尾根の岩稜帯では、登る人下る人で時間待ちを余儀なくされながらも予定どおり頂上に到着。さすが一等三角点の山です眺望は抜群、目の前の鎌ヶ岳が一段と迫力ある姿を見せてくれる。速くには伊勢湾から伊勢平野が一望の下で、ここで最高のレストタイムとする。下山は国見峠より裏道を下る。途中藤内壁を対岸に眺めながらの楽しいルートです。元クライマーの代表や長瀬、西村氏より岩壁の説明を受ける。後は藤内小屋を過ぎ湯ノ山温泉へと急ぐ。この度の山行はチャーターバス利用のおかげで乗換えなどのわずらわしさもなく、ゆったりと座れて安く行けたことを喜んでおります。山はやっぱり少々暑くても晴れた方がいいですね！昔、雨男のツブヤキ・・・ 記:三原</p>									
連番	447	例会No.	一般273	内容	丹波・黒頭峰、夏栗山	実施年月日	2012/5/13	担当者	板谷、大西(恒)	
参加者	板谷佳史、大西恒雄、杉本康夫、青木義雄、神阪洋子、田中智子、奥中種雄、安岡和子、山下登志子、寺島直子、寄川都美子、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美、福田直也、櫻田克彦、小椋美佐、笠松マサエ、谷村洋子、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、長瀬茂正								参加者数	22
担当者コメント	<p>黒頭峰は地理院の地形図では「クロズホウ」だが今西錦司も「クロツボ」と呼称して紹介している。そのいわれについては、長くなるので省略。夏栗山と並んで同じ形の優しい二峰を連ね、岩っぽく多紀アルプス中では異色の美しいピークだ。爽やかな新緑の中、丹波の里山歩きを楽しめた。今回を含め計7回の例会で、多紀アルプス連山の主稜線にあるピークを網羅できたものと思う。丹波にはまだまだ楽しいピークが点在します、紹介を続けますのでご期待を・・・。 記:板谷</p>									
連番	448	例会No.	OP166	内容	四国・石鎚山、二の森、瓶ヶ森と 道後温泉 10周年記念山行・悠々ツアー 登山シリーズ・その2	実施年月日	2012/5/19~21	担当者	翁長、本郷、長瀬、 秋田、西村(晶)	
参加者	翁長和幸、本郷善之助、長瀬茂正、秋田文雄、西村晶、奥中種雄、畑山禮子、江本恭子、和田良次、和田敬子、田中智子、櫻田克彦、黒澤百合子、保木道代、寄川都美子、寺島直子、杉本栄子、神阪洋子、小椋美佐、安部泰子								参加者数	20
担当者コメント	<p>5月19日 難波AM7:10チャーターバスで晴天の下、一路四国瓶ヶ森へ。松山ICから国道33号線、石鎚スカイライン経由で瓶ヶ森登山口着。石鎚スカイラインの途中では、今回たどる尾根筋が目前に迫ってくる。石鎚山東稜のギザギザした岩が頂上にせり上がって行く様は、槍ヶ岳に向かう北鎌尾根を連想させ、いやがおうでも気分は高揚する。素晴らしい景観だ。瓶ヶ森登山口で先着している長瀬氏と合流する。残念ながら、翁長氏は体調不良で登山を中止し畑山さんとバスで待機となった。瓶ヶ森は石鎚山山行の付録のようなもので足慣らし的な気楽な山歩きとなった。良く踏まれた山道を石土古権現が祀られている男山へむかう。振り向くと岩峰の子持権現山(1677m)が目を楽しませてくれる。男山を越え、まもなく二等三角点のある女山(瓶ヶ森山頂、1896.2m)へ。ここは石鎚山、笹が峰と共に伊予の三名山とされている。下りは石鎚山の鋭峰を眺めながら氷見2千石原(ひみにせんごくばら)といわれる広大な笹原を回り駐車場へ。付録の山にしては予想外に素晴らしく、心満たされ十分に満足してチャーターバスに乗る。今宵の宿、「国民宿舎・石鎚」まで運んでもらい初日は終</p>									

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

**担当者コメント**  
 5月20日 今日は長い1日となりそうだ4時起き、5時出発。前夜に配られた朝食用のおにぎりを食べながらの出発準備であわただしい。しかし全員5時に集合。まだ目覚めぬ身体に朝の清々しい空気を吸いブナ林と雑木林の中を東稜の分岐点へ。登るにつれて石鎚スカイラインなど筒上山方面の山並みが見えてくる。東稜分岐点は広くここで大休止する。二の鎖小屋コース6名(本郷隊)と東稜コース12名(秋田隊)が石鎚神社で合流するという事で、ここで分かれる。東稜コース組は一応岩登りの準備をして出発する。東稜の登り口にある通行禁止の立て札を横目に見て歩き出す。気がひける。このコースを登る他の登山者もこんな気持ちだろう。そう思うと事故はしてはならない。この立て札も遭難の抑止力になっているのだ。コースはいきなり急登から始まる。矢筈岩をめがけて笹の急なルンゼを登ると硬い岩登り、ここは先頭の長瀬さんが安全の為、ザイルをフィックスしてくれた。これを登ると岩稜のトラバース、スリップすれば笹の滑り台をどこまで落ちるか分からない。高度感のある所だ。あとは岩稜通しに山頂の天狗岳(1982m)へ。二の鎖小屋コース6名(本郷隊)と弥山で合流、全員揃う。8時30分、思ったよりも早く到着した。皆さん元気そうでこれからの長丁場も心配なさそう。ただ曇り空が気にかかる。二の森へは笹と灌木の尾根が続く。西の冠岳のコルを過ぎた頃から石鎚山の岩稜を望む事が出来る。今朝あそこを登ってきたと思うと感激もひとしおである。二の森は目の前だが、けっこう時間がかかり、やっとの事で頂上に着く。一等三角点(1929.2m)であり、四国では3番目に高い山らしい。二の森を少し下った所でメンバーの一人がつまずき転倒、打ち身とすり傷を負うが大事にいたらず、本人も元気なので小休止後、そのまま山行を続行する。尖塔のクラセの頭を見ながら進む。笹原とまばらな白骨樹林が山を絵のように演出しているようだ。堂々森のコルで小休止。振り返って見る笹山は広大な景観を持ち、心に感動と癒しを与えてくる。堂々森山頂からは今日一日歩いた尾根が見渡せる。面河ダムを見下ろし一気に下るが疲れもあり、登山口のある林道まで長く感じられた。バスが待機している国道までさらに長かった。バスと共に待っていてくれた翁長氏、畑山さんの顔を見て、やっとなんか笑顔になった。15時国道着。山行の達成感を感じつつ道後温泉行のチャー  
 5月21日 道後温泉に来たからには「坊ちゃん風呂」へ。前日の疲れも何んのその、早朝5時半起床、6時前にホテル出発。早朝にもかかわらず、「坊ちゃん風呂」はたくさんの人で賑わっていた。ホテルに戻ると今度は金環日食の話題でワァー・ワァーと。今日も楽しい1日が始まりました。われ等が仲間は元気いっぱいです。讃岐うどんを無視して帰るのは、いかにも「もったい無い」と意見が続出。ホテルで探してもらった名のあるうどん屋さんへ途中下車。大阪には夕方5時過ぎ到着した。こうして悠々ツアー登山のシリーズ2回目は楽しく終わりました。10時間行動の登山、温泉、名物料理。これらが1つになったのが悠々ツアー登山です。いかにも悠々登山ではなく、そこにまつわる色々な事を楽しもうというのが、このシリーズの原点です。仲間のみなさん、これからも更に遊びに食欲になりましょう。サブリーダーの方々とメンバーの皆さんのご協力に感謝いたします。 記:翁長

連番	449	例会No.	OP167	内容	福井・荒島岳	実施年月日	2012/5/26~27	担当者	本郷、小椋(勝)
----	-----	-------	-------	----	--------	-------	--------------	-----	----------

参加者	本郷善之助、小椋勝久、山下登志子、安本嘉代、保木道代、杉本栄子、小椋美佐、小杉美代子、奥中種雄、松田芳治、長瀬茂正、宮平良雄、村浪義光								参加者数	13
-----	---	--	--	--	--	--	--	--	------	----

**担当者コメント**  
 福井駅より一両編成の越美北線で約1時間のんびりと、越前大野駅に着く。駅前の旅館「こし路荘」、老夫婦の心づくしのもてなしに感謝。夕食も朝食も十二分に頂く。N、M氏の車に同乗させてもらい、中出林道登山口へ、しばらく林道を歩いて登山道へ。ブナ林の中を登って行くとお荒島への分岐となる。ピークより見る本峰はさすがに大きく堂々として百名山にふさわしい。少し下って登り返すとシャクナゲ平でN、M氏がすでに着いていた。これより露岩やくサリ、フィックスロープのあるのぼりが続いて前荒島に着く。展望も開けばんやりと残雪の白山が望める。登る人と下る人で渋滞がある。広い山頂も人が多くやはり人気の百名山である。経ガ岳、赤兎山、大長山、三ノ峰等が望まれる。山頂には新しいプレートが設置されていた。花も多く人気の山であることを再確認した。シャクナゲ平へ引き返し急な道を下って勝原スキー場跡へ下山した。 記:本郷

連番	450	例会No.	OP168	内容	10周年記念山行 岩湧山集中登山 コースNo.1 根古川コース	実施年月日	2012/6/3	担当者	秋田、野原
----	-----	-------	-------	----	---------------------------------------	-------	----------	-----	-------

参加者	秋田文雄、野原勇、和田都子、藤田喜久江、三原博子、三原知未、喜多田恵美子、實操綾子、山本洋、安本昭久、吉田伸實、片山純江、戸田晴子、前田守								参加者数	14
-----	---	--	--	--	--	--	--	--	------	----

**担当者コメント**  
 今回の根古川コース(9:00)に出発する。時間的にのんびりしたハイキングコースで参加者も日頃ベシク例会のメンバーが中心で今回初めての女子二名参加と元泉州山岳会会員の飛び入りの参加(彼はいつもEPEホームページを閲覧していて、参加をしてくれました。久しぶりに皆と会い楽しく一日を過ごしてくれたと思います。)でした。何時もとちがう、新鮮な雰囲気での出発。根古川沿いに杉の植林帯のお陰で暑くもなく越ヶ滝分岐で小休止後一息に三合目まで登る。思ったより皆さん元気でした。私が感じた事は日頃緑深い大木の植林帯や其処から来る涼しい風が心地よく顔にあたる気持ちよさ、これらに感動してくれたことです。日頃自然出合う事が無いからでしょう。あとは平坦な尾根筋を岩湧山へ。アシ谷コースと合流して昼食(11:30)を共にして岩湧山に三原隊ともども12時30分にゴールする。頂上では、ぜんざいをよばれ、記念品を貰い皆なお喜び。記念写真を撮り、皆と同じ下山コースを滝畑ダムバス停へ。 記:秋田

				内容	コースNo.2 アシ谷コース			担当者	西村(晶)、西田
--	--	--	--	----	----------------	--	--	-----	----------

参加者	西村晶、西田保、和田敬子、和田良次、田中和美、川下淳子、永島健一								参加者数	7
-----	----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	------	---

**担当者コメント**  
 天見駅前の広場に参加者が集合されていましたが1名が多い、永島さんが飛び入り参加です。多くの仲間が参加して頂上で合流すれば楽しさも倍増するでしょう。山里では畑仕事をされている人の姿を見ると閑かさを感じました。水の流れに涼しさを感じながらアシ谷を登り林道が終わる所から山道に入ります。根古峰よりダイヤモンドトレール道に出た所で根古谷コースの参加者と合流20名になり一気ににぎやかになり、岩湧山東峰手前で一徳防山コースの参加者と合流し、32名が岩湧山の頂上に向かいました。 記:西村(晶)

				内容	コースNo.3 一徳防山コース (近畿の山EPE特選コース-6)			担当者	三原、小椋(勝)
--	--	--	--	----	-------------------------------------	--	--	-----	----------

参加者	三原秀元、小椋勝久、樺田克彦、福田直也、近藤さとみ、谷村洋子、岸田映子、寺島直子、川崎喜美子、堀木宣夫、真下好雄、安本嘉代								参加者数	12
-----	---	--	--	--	--	--	--	--	------	----



# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

連番	452	例会No.	一般274	内容	北摂・深山 10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズ No.6	実施年月日	2012/6/17	担当者	三原、本郷	
参加者	三原秀元、本郷善之助、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、奥中種雄、西村晶、西村美幸、樺田克彦、堀木宣夫、岡本佳久、寄川都美子、谷村洋子、安本嘉代、岸田暎子								参加者数	14
担当者コメント	<p>天気予報では50%の確率の雨である。案の定夜半には大雨である。しかし創立10周年記念山行でもあるので、中止は難しいので決行とは決めていたが、朝、家を出るときには雨は上がっている、どうせ又どこかで降られる覚悟で出かける。深山は大阪北部の山では最高峰であるが足の便の悪さから、大阪からはあまり行く人の少ない不遇の山である。大阪府の最北の集落、天王より荒れた林道を行く。めったに人も訪れない領域なのか野生の鹿が驚いて何度も逃げて行く。急なクリヤナラの林を登っていくと思ったらより早く頂上直下の林道にとび出す。頂上には気象用レーダー施設があり、深山宮の鳥居と御神体の大岩が鎮座していて清々しい頂上である。曇り空ではあるが視界はよく効き360度の展望は大阪市内まで見渡せる。北部は大江山も見える、その向こうの若狭湾まで見える日もあるのだろう。下山は南へり溪方面への新しい道を下る。り溪は戦前から関西の有名な溪谷の1つであったらしいが今では水は濁って泥臭い臭いのする溪谷になっているのは少々ガッカリでした。今日は梅雨時の山行なので、雨元で来ていただけないに思わぬ天気には拾い物をした感じの日でした。</p> <p>記:三原</p>									
連番	453	例会No.	一般275	内容	キリシタン自然歩道～竜王山 ～武士自然歩道 10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズ No.7	実施年月日	2012/6/24	担当者	板谷、野原	
参加者	板谷佳史、野原勇、保木道代、小椋美佐、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、堀木宣夫、岡本佳久、福田直也、樺田克彦、西村晶、西村美幸、田中智子、柴田弘子、寄川都美子、寺島直子、宮平由紀子、川崎喜美子、神阪洋子、青木義雄、奥中種雄、安本昭久、安本嘉代、小杉美代子、江本恭子								参加者数	25
担当者コメント	<p>例会案内のコースでは少々時間がかかり過ぎるので、少し先までバスに乗ることに変更しました。それでも舗装道路の多いコースで内心申し訳ないながらも、来たからには予定のコースを完歩してもらおうと容赦なく予定通りのコースを歩き通しました。まだまだ炎熱下という季節でもないが、暑さに体が未だ慣れていないこともあり、苦勞された参加者もいたようです。この夏は10周年記念登山が続くことだし、皆さんしっかり鍛えて滞りなく参加できるように少々辛ごかせて頂きました。</p> <p>記:板谷</p>									
連番	454	例会No.	一般276	内容	ベーシック登山No.13 高瀬山	実施年月日	2012/6/30	担当者	秋田、大西(恒)	
参加者	秋田文雄、大西恒雄、青木義雄、上原進一、和田良次、和田敬子、真下好雄、岸田暎子、喜多田恵美子、三原知未、三原博子、寄川都美子、近藤さとみ、實操綾子、磯辺秀雄、堀木宣夫、横内まみね、山下登志子、和田都子、片山純江、藤田喜久江、紀伊莚本博美、山本洋、齋藤容子、吉田伸實、樺田克彦、小杉美代子、谷村洋子、安本嘉代、西田保、大石隆生、高木恵美子、戸田晴子								参加者数	33
担当者コメント	<p>JR亀岡駅北口で出発準備日目の前に牛松山と明智越えの尾根を眺め保津川の橋を渡る。橋下に保津川下りの乗船所あり、此処より船で嵐山迄下る。橋を渡り初めての信号を右に入ると保津町の集落到文覚寺の上に標識あり此処から山手に登る。しかし今日は梅雨の合間で天気か曇りか解り難いしかし蒸し暑い簾戸口に、着いた頃ひと汗かかされ先の暑さが思いやられる。「明智越え」愛宕山に参拝する道であった。光秀は庶民や騎馬武者が容易に通れるように整備したと言われていた。明智光秀が15000騎の軍を北より明智越え・唐櫃越え・老ノ坂越えの三面より本能寺に向かったと、伝えられている。ここから山道はしっかりと踏み固められているが登るにつれて雨でVカットされた所もあり一息入れた頃に峰の堂に。光秀が本能寺攻めの必勝祈願をここでしたとも言われ、一応成功したが天王山で秀吉に敗れ、峰の堂の「峰」を「むね」と読ませた。それから「無念堂」と言われている。これより気持ちの良い尾根道に風も吹き抜け快適な気分が悠久の思いで騎馬武者が意気揚々と通った、山道を想像して夢みたいな妄想をさせてくれるロマン街道だ。「土用の霊泉」夏の暑い土用にも涸れない霊泉、今は涸れている。この霊泉で三七草をつけて蘇らせ鎧の袖の下に秘めて進んだと伝えられている。(三七草は薬草で葉は虫刺されや血止に根は吐血や強壯薬として使用されていた)ピーク400mの下を巻いて、尾根道を水尾と高瀬山分岐に緩やかな尾根道を高瀬山(340m)三角点は頂上より少し下の登山道の横の雑木林の中で見落とし易い。保津川に向って下ると、送電線の鉄塔の真下にコースの中で愛宕山や牛松山見えていたがここからの景色は山間に保津川にJR山陰線本線鉄橋、電車が走り子供の頃の絵本を思い出すような、コース一番の展望です。あとは巡視路に注意して亀岡・保津分岐へ保津方面まもなく林道松尾谷線あとは車道を。心配していた雨がポポッと降りだす。快適な山歩き最後は足早に保津峡駅に全員元気に解散。記:秋田</p>									
連番	455	例会No.	一般277	内容	金剛山南尾根	実施年月日	2012/7/8	担当者	大西(恒)、野原	
参加者	大西恒雄、野原勇、田中智子、柴田弘子、神阪洋子、奥中種雄、笠松マサエ、樺田克彦、岡本佳久、吉田伸實、磯辺秀雄、堀木宣夫、齋藤容子、真下好雄、福田直也、寺島直子、横内まみね、高木恵美子、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、山本洋、宮平由紀子、寄川都美子、小椋美佐、小杉美代子								参加者数	25
担当者コメント	<p>金剛山南尾根といえば、現役の頃はトレーニングのコースでした。勿論、優雅とは程遠い訓練の山行きです。目いっぱい詰めたザックを背にして、ひたすら紀見峠を目指したものです。・・・とはいえ、E. P. Eの例会としては、その趣旨から優雅に、パワフルに、エンジョイする山行きでなくてはなりません。しかし、夏の大きな(?)山行きに備えて脚試し(?)をするのも悪くはありません。ここ何年かは恒例行事のようにになっている理由です。トレーニングのイメージがある南尾根に果たして何人が・・・というのが担当としての気掛かりでしたが、多くの参加があったということは、皆さん同じ気持ちだったのでしょうか。幸いにも暑くもなく、順調に所期の目的(足慣らし、脚試し)を達しました。紀伊見荘が民営になって営業を再開していた。偵察と称して風呂に行くという人が多いので、紀伊見荘前で解散としました。いつの日か、又新年会をここで……。記:大西(恒)</p>									
連番	456	例会No.	OP170	内容	湖北・武奈ヶ嶽南谷廻行	実施年月日	2012/7/15~16	担当者	板谷、長瀬	
参加者	板谷佳史、長瀬茂正、保木道代、寺島直子、黒澤百合子、安部泰子、村浪義光、小椋美佐、江本恭子、川守田康行								参加者数	10

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

担当者コメント	マキノの愛発越(あらちごえ)から今津の山並みを経て朽木の三国岳(さんごくだけ)に至る80kmに及ぶ山稜は、「高島トレイル」と名付けられて整備されている。同時にこれは中央分水嶺でもあり、従ってどの山稜からも若狭の海と琵琶湖が眺められるのである。武奈ヶ嶽はちょうどその中央付近に位置する。整備されていると言っても分水嶺の縦走路に限って標識類が豊富なだけで脇からの登山道は踏み跡も薄い箇所が多い。今回の南谷は分水嶺より西に位置するから日本海側に流れる水ということになる。紹介書や経験者の記録を参考に遡行したが、巻き道などの踏み跡も非常に薄く、標識に類するものは全く見かけず新鮮な印象であった。各地で水の被害が聞かれるさ中の沢登り例会だったが、幸いこの地では雨など全く無く、快適な二日間を過ごすことができた。記:板谷								
連番	457	例会No.	一般278	内容	ベーシック登山No.14 京都・牛松山	実施年月日	2012/7/21	担当者	秋田、杉本(康)
参加者	秋田文雄、杉本康夫、和田都子、宮平由紀子、三原博子、三原知未、喜多田恵美子、青木義雄、山本洋、堀木宣夫、紀伊基本節雄、紀伊基本博美、吉田伸實、上原進一、和田良次、和田敬子、横内まみね、樺田克彦、寄川都美子、翁長和幸、大石隆生							参加者数	21
担当者コメント	牛松山は、JR亀岡駅北口より北東に美しい富士の姿で、一目で分かる。山頂には、海の守り神の金毘羅神社が祀られている。保津川下りの船頭さんの守り神だ。国分バス停より暑い車道を10分ほどで愛宕神社に着く(10:20)。境内は大木があり、気持ち良い涼しさだ、神社本殿には寄らず標示に従って、林道をしばらく登ると牛松山への登山道に、よく踏まれた道が樹林が茂った、展望のない、少し急な登りをのんびりと、ひたすら登る。三角点(626m)手前あたりから雲行きが悪く雨が降り出す。雨対策をして三角点に(12:10)。雨の中を山頂のNTTのアンテナに、ここが牛松山(636m)山頂。この下に金毘羅神社が、雨も本降りになり、とりあえず、休憩所に。ここをお借りして昼食を、少し暗いが贅沢は言えない。休憩所の天井に奉納された二隻の小船が吊るされ保津川の船頭さんの守り神を思わせる。雨も土砂降りから小降りになり、下山(12:55)開始。このコースは神社に登る参道で石柱(下から一丁〜一八丁まで)一五丁、この辺から展望が開けるが雨で見られず石柱の丁を数えながら、水の流れる参道を一丁の登山口へ。竹藪を過ぎ車道を北保津バス停に保津小学校の二宮尊徳の銅像にめずらしいと感心する、すこし年代がわかる。雨も小降り。保津川下りの乗船場の船は一隻もなく今日は休みらしい、亀岡の駅も近い。金毘羅神社より亀岡駅まで雨の中、休憩なしで亀岡駅へ。ここで解散する。お疲れでした。記:秋田								
連番	458	例会No.	一般279	内容	丹生・稚子ヶ墓山	実施年月日	2012/7/22	担当者	野原、杉本(康)
参加者	野原勇、杉本康夫、福田直也、樺田克彦、近藤さとみ、寄川都美子、紀伊基本節雄、紀伊基本博美、小杉美代子、安本昭久、谷村洋子							参加者数	11
担当者コメント	過去の例会記録を見ると、今回計画した丹生山も稚児ヶ墓山もコースは今回のコースとは異なっていますが登られています。しかし、以前から稚児ヶ墓山という悲哀を帯びた珍しい山名に興味を持ち、私自身一度は登ってみたいと思っていた山でした。先ず山に入る前に、伝承によると大同元年(西暦806年)に建立されたという日本最古の民家「箱木千年家」に立ち寄った。この家は「まんが日本昔話」に出てくるおじいさん、おばあさんが住んでいる藁ぶきの家そのもので、生垣越しに覗いただけですが、生涯二度と再訪することはないであろう歴史遺産に触れた感じがしました。今回の義経道から登るコースは道標も多く迷うような所はなかったが、粘土質で水はけが悪くロープを張った急坂が多い。またインターネットで調べると登山口が分かりにくいということが数多く記されておりました。バス停から登山口までは距離も短い、案内板等は一切なく確かに初めてだと迷うであろうこと納得。最初のピークである丹生山頂上には無住の丹生神社が鎮座しており、その手前の丹生城跡・明要寺跡に立っていた絵入りの案内板を見ると平清盛の庇護を受け大伽藍を擁し僧兵も抱えていたようであるが、柴秀吉による焼き討ちで灰燼に帰したとのことで昔日の華やかさは現在は微塵も感じられない。焼き討ちの際に秀吉の軍勢に追われた稚児達が山に逃げたが、山頂近くで惨殺されたという悲劇の歴史から稚児ヶ墓山と名付けられたようです。このように源義経、平清盛、羽柴(豊臣)秀吉など歴史上の人物が関連するコースで登山道も整備されていますが、ほぼ樹林帯を辿るため丹生山や稚児ヶ墓山の稚児の墓がある箇所等ほんの一部が切り開かれて展望がきくだけで、全体としては展望の期待できないコースです。今回は昨日のベーシック登山(一般例会NO. 278 京都・牛松山)に引き続いての例会山行だったので、参加者はひと桁になるのではと予想していましたが、計11名と担当者としては丁度よいコンパクトな山行となりました。EPEクラブの担当になって以来、20名以上の山行が続いていますが、このようなコンパクトな山行の良さをあらためて感じた次第です。記:野原								
連番	459	例会No.	OP171	内容	福井・部子山、姥ヶ岳	実施年月日	2012/7/28~29	担当者	小椋(勝)、三原
参加者	小椋勝久、三原秀元、近藤さとみ、寄川都美子、神阪洋子、寺島直子、安本嘉代、小椋美佐							参加者数	8
担当者コメント	7月28日 今回、姥が岳を計画するに当たり、前日発になるので、せっかく前日に姥が岳方面に行くのだから、行程の短い山をもう一つと部子山を選びました。駐車場から15分程度で登れるとの事。そこは山屋、手前の登山口から3時間の行程でと考え、急きょ大阪駅を9時発に変更、これで登った気になるやろうと意気込み名神高速へ。ところが大渋滞に会い苛立ちながら部子山に着いたのが15:00過ぎ、やはり林道最終の駐車場まで車で行き、そこからゆっくり15分~20分程度かけ山頂に。しかし山頂に着けば苛立ちも何処かへ、銀杏峰、能郷白山などの展望が、目の前に広がり山頂での山岳展望、これで皆さんも少し満足したかと自分で納得しながら下山した。 7月29日 宿泊地を7時に出発し国道から長い林道を1時間程度走りようやく平家平へ。この時期はやはり季節はずれなのか、登山客も少なく車が2台程度。早々に準備をし、登山道へ。前日来の猛暑の中いくら標高900mといえども暑い。汗をかきながら風の無い登山道を歩く。何度か林道を横切りブナ林へ、ブナ林の中は風も冷たく鮮やかな緑。ブナの緑を鑑賞しながら歩く、途中時期はずれの水芭蕉群生地を通過し、長くあまり高低さの無い尾根道をだらだらと汗をかきながら登る。頂上手前で藪こきに、藪を抜けると頂上。あまり展望は望めないまま休憩をとり下山、途中ブナ林で大休憩を取る。ブナ林まで来ると数人の登山者がブナ林を鑑賞しに登って来ていた。帰路、平家平の樹齢300年の大トチノ木を見て下山する。本来季節が良ければいろんな草花を見ることができたのですが「季節、山の種類に関わらずどんな山でも山頂に立てば良かった」と思える事を実感させてくれた山行でした。記:小椋(勝)								
連番	460	例会No.	OP172	内容	木曾御岳と野麦峠と濁河温泉 10周年記念山行・悠々ツアー 登山シリーズ・その3	実施年月日	2012/8/4~6	担当者	秋田、板谷、 大西(恒)、翁長

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

参加者	秋田文雄、大西恒雄、板谷佳史、西村晶、和田都子、上原進一、藤田喜久江、三原博子、三原知未、喜多田恵美子、小杉美代子、實操綾子、山下登志子、大石隆生、紀伊埜本節雄、紀伊埜本博美、寄川都美子、笠松マサエ、和田良次、和田敬子、真下好雄、畑山庄司、畑山禮子				参加者数	23				
担当者コメント	<p>8月4日 難波8:10 早くも酷暑を予感させる陽射しの元、定刻どおり出発。夏休み本番とあってふだんより自家用車の多い高速道路は渋滞気味。それでも木曾川沿いの国道を走る頃には閑散としてきて、12:47 途中立ち寄った妻籠宿も時期外れのためか観光客もごくわずか、ここで自由行動とし、昼食。このあと更にバスを走らせ開田高原へ。途中で入浴の後、17時頃今夜の宿に到着する。 記:板谷</p> <p>8月5日 始発6:00のロープウェイに乗るため早朝から朝食、弁当の準備をして下さった岩井屋旅館さんに感謝してバスに乗り込む。予定通りロープウェイで飯森高原駅に降り立ち、いよいよ今日は観光ではなく登山、気を引き締めて出発する。八合目までは樹林の中で蒸し暑くつらい登りが続く。登り下りとも登山者多く、その対応にも疲れるので困る。八合目を過ぎると樹林帯を抜け空気も爽やかに山頂が仰がれるようになり、気分も晴れる。最後の一頑張りで人だかりのできている剣ヶ峰山頂へ・・・3000m級の登山は初めてのメンバーもあり、感激の山頂だ。お互いの健闘を祝した後、予定通り2パーティに分かれてそれぞれのコースへ向かう。 記:板谷</p> <p>濁河温泉縦走パーティ 山頂にある社務所の裏から剣ヶ峰を後にする。ルートは一ノ池を取り囲む火口壁の稜線を辿る、火山特有の荒涼とした風景が続くが、二ノ池を過ぎると火口壁とも別れ、サイノ河原と呼ばれる平地となり死者を弔う無数の石積みは少し薄気味悪いものの、コマクサはじめ一面の草花に埋め尽くされて、高山らしくなってきた。更に摩利支天乗越から飛騨頂上を過ぎると、濁河への下降を残すだけとなるが、長い下降なので体力を心配したが、途中斜面を埋め尽くすコマクサ群落に感激したりできる変化のあるコースで、全メンバー無事登山口に下山し、濁河温泉に入った。 記:板谷</p> <p>黒沢口コース往復パーティ              剣ヶ峰の社務所脇を下って行く濁河温泉パーティを見送ってから、往復パーティも下山を始める。木曾側から時折吹き上げて来るガスの中、残雪の壁が今にも崩れ落ちそうな二ノ池を眼下に眺めながら稜線を辿り、黒沢口登山道の下降点へ。つい先程苦勞して登った岩の積み重なった登山道を、今度は慎重に下って行く。下りきった所が黒岩で、最初の休憩をとる。登りの際もそうだったが、白衣装束の御嶽講の方々や宗教的モニュメントを見かけるたびに、ここは信仰の山だと認識させられる。と同時に、自分達もその類だけれども最新ファッションの登山者やトレイルランナーを目にすると、ポピュラーな山でもあると思ってしまう。だらだらとした斜面を下り、森林限界に戻って八合目に。ここで再度の休憩をとり、「こんなに長い距離を登って来たのかしら」という会話を背に受けながら樹林帯を更に下って御岳ロープウェイの飯森高原駅に着き、「ずいぶんお待たせしました」と散策パーティの畑山夫妻と合流。ロープウェイで鹿ノ瀬駅に下り、チャータバスで濁河温泉に向かう。夢の中で飛騨側に峠を越え、濁河温泉パーティが到着したという直後に当パーティも温泉に着いて、本日の行動を無事終了した。後は、温泉と宴会が待つばかり。剣ヶ峰11:30-黒岩12:35-57-八合目13:43-57-飯森高原駅14:50-濁河温泉17:00 記:大石</p> <p>ロープウェイで一気に2150mまで運んでもらって3000mを目指す登山は、さすがに悠々登山だと思いました。とはいえ、3000m級登山の経験が無いメンバーも含まれており、いきなり高所に運ばれての登山に事前の心配もありました。主担当者方の綿密な計画で、酸素スプレーまで携行しての登山となりました。結果何の問題も無く全員登頂を果たされ、普段のベシック登山や一般例会での経験の積み重ねが実っていると感じました。今回の経験は充分自分の自信にして良いものと思います、決してこれで終わりではなく、更なるステップアップの機会と捉えて今後も精進されることを望みます。 記:板谷</p>									
連番	461	例会No.	一般280	内容	比良・白滝山 10周年記念山行・近畿の山EP E特選コース-8	実施年月日	2012/8/19	担当者	板谷、小椋(勝)	
参加者	板谷佳史、小椋勝久、神阪洋子、樺田克彦、福田直也、堀木宣夫、寺島直子、紀伊埜本博美、笠松マサエ、小杉美代子、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、江本恭子				参加者数	14				
担当者コメント	<p>特選コースも佳境に入って早や8回目、「簡単に10回をクリアできるようにはできていない、賞を目指すなら覚悟して歩き通すように」と念を押して出発。恐れていたように比良西面はヒルの巣と化していた。賞を取るためにはヒルをも恐れなくて参加する必要があるということか？ワサビ大滝の巻き道あたりから山頂直下までは急登が続く。今一つ調子の上まらないメンバーが二人ほどとヒルの犠牲者数名とともに、途中踏み跡を見失ったりしながら、再び明瞭なルートに戻ってわざわざ行く山頂。何の展望もない山頂だ。樹林に囲まれ蒸し暑くさっさと先を急ぐ。白滝谷沿いのコースに入ると少し涼しい思いができた。渡渉が一箇所、念のためザイルも忍ばせていたが水量少なく問題無し。白滝谷の源流、汁谷に到着。ここが予定どおり志賀駅まで歩いて下るか、エスケープするかの分岐点である。現在時刻とメンバーの調子を考え無理せずスキー場からロープウェイでエスケープすることに決めた。決めてしまえば、後はレジャー客に混じって乗り物の旅であつという間に志賀駅でした。 記:板谷</p>									
連番	462	例会No.	一般281	内容	大和・額井岳、戒場山	実施年月日	2012/8/26	担当者	翁長、三原	
参加者	翁長和幸、三原秀元、近藤さとみ、寄川都美子、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子、樺田克彦、福田直也、堀木宣夫				参加者数	10				
担当者コメント	<p>登山にとっては当たり前だが、特に今回のコースは天気の良い時に行ったほうが良いようだ。雨天の日は止めた方が賢明だ。全体を通じて樹木が多く、太陽の光があまり差し込まず、薄暗い感じの登山道が続く。切開きがあったのは額井岳頂上付近だけで、戒場山も木々に囲まれて薄暗かった。しかし今回はそのお蔭で涼しく、樹間を吹きぬける風は秋を感じさせる爽やかさであった。冬枯れの時期はもう少し明るいコースになるかも。バス停付近から見える額井岳は見栄えが良く、大和富士と呼ばれるのも納得した。今回のもう一つの興味は、山部赤人の墓を訪ねる事であった。山部赤人は下級官吏であったそうだが、万葉の歌人として、その名は今日まで語り継がれている程、著名な人物である。そのような彼の墓としては五輪の石塔しかなく、見る者には寂しさを感じさせられる。周りに生垣や何か祀りものがあるのもよさそうに思えた。この墓は間違いなく彼のものであるという、歴史的検証はなされていないようだが、近隣の村人は信じて疑わないという事であった。 記:翁長</p>									
連番	463	例会No.	一般282	内容	和歌山龍神・白馬山 10周年記念山行・大阪湾を巡る 隠れ山シリーズ No.8	実施年月日	2012/9/2	担当者	三原、翁長	

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

参加者	三原秀元、翁長和幸、紀伊桝本節雄、紀伊桝本博美、西村晶、西村美幸、近藤さとみ、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、神阪洋子、樺田克彦、福田直也、岸田暎子、谷村洋子、寺島直子、黒澤百合子、寄川都美子、小椋勝久、岡本佳久、小杉美代子、岩本和行、青木義雄、横内まみね						参加者数	24	
担当者コメント	<p>例会案内の予定では南側の川原河から登る予定をしていたが、偵察の結果舗装された林道を2時間位歩かなければならないので、今年のようなこの猛暑の中を多人数で歩くのは考え物だと判断して、今回は北側の地図には出ていないが短いルート歩くことにしました。チャーターバスで標高600mの登山口まで来たので今日はラクラク登山という事です。それでも残暑は厳しくゆっくりペースで休憩も充分取りながら行くが、汗びっしょりで北面のコルに到着。30年位前までにはこのあたりの山は殆ど人工林に変えられてしまったが北面にはまだ自然林が残っていてブナの大木やヒメシャラの褐色の幹が心を和ませてくれる。最後の一頑張りである頂上に出るが樹林が成長して大阪湾を望むことはできない。時間も充分あるのでゆっくり昼食とする。帰路は眼下の林道目指して下る。横を林道が通っているが忠実に登山道を行く事とするが余り人が入ってはず藪漕ぎをさせられる事となる。後は林道を30分ほど歩き途中の温泉で汗を流して帰阪する。ガイドブックによるとこの山の登山シーズンは夏の暑い時期を除けばいつ歩いても良い山と書いてあるのに、あえてこの時期に皆んな文句も言わずによく歩いてくれました。これも10回完登を目指すパワーなのですね、益々の健闘を祈ります。記:三原</p>								
連番	464	例会No.	OP173	内容	鈴鹿・日本コバ藤川谷廻行	実施年月日	2012/9/9	担当者	板谷、安部
参加者	板谷佳史、安部泰子、保木道代、寺島直子、黒澤百合子、川守田康行、江本恭子、樺田克彦						参加者数	8	
担当者コメント	<p>初級クラスの谷とはいえ、8名で途中2回ザイルを使用したこともあり、廻行時間は4時間近くかかってしまいました。廻行終了後、山頂までの登山道も結構長く全所要7時間の山行でした。今年の沢登りはこれで最後ということで参加者は岩と水の感触を心行くまで楽しんでいました。それにしても覚悟をしていたとはいえ、鈴鹿のヒルは半端ではなかった。登山口からは安心できる場所は無しという状態。沢靴や登山靴にへばりついているのを払い落としたヒルは数え切れずという状態でした。幸い実際に噛まれて傷を負った者は担当者以下数名に留まりました。が、更に家に帰ってから噛み傷を発見したり、ザックから現物が出てきたり・・・という人も。わざわざタクシー代まで使ってヒルに噛まれに行くか？物好きな人たちが居るものです。記:板谷</p>								
連番	465	例会No.	OP174	内容	島根・三瓶山「カルデラを巡る」シリーズNo.1	実施年月日	2012/9/16~17	担当者	小椋(勝)、翁長
参加者							参加者数		
担当者コメント	中止								
連番	466	例会No.	一般283	内容	比良・堂満岳東稜10周年記念山行・近畿の山EP E特選コース-9	実施年月日	2012/9/23	担当者	三原、野原
参加者	三原秀元、野原勇、樺田克彦、紀伊桝本節雄、紀伊桝本博美、江本恭子、福田直也、松本明恵、寄川都美子、近藤さとみ、寺島直子、安岡和子、谷村洋子、安本昭久、安本嘉代、堀木宣夫、杉本栄子						参加者数	17	
担当者コメント	<p>予報では70%雨という。EPE特選コースでもあるし中止しにくい状況なので雨中登山覚悟で決行とする。比良駅へ降りた時は今にも降り出しそうな雨空ではあるが、雨具を着けずに出発することが出来た。日差しの無い分涼しささえ感じる。正面には堂満岳の端正なピークがガスの中に見え隠れする。イン谷口からは急な登りとなり杉林の中を行く。ここも鹿害が多いのか杉の幹には青や紫や緑などのボリの紐が巻きつけられケバケバと落ち着かない感じだ。小谷を巻き東稜に上がると自然林も増え道は緩急を繰り返して最後の急登で堂満岳の頂上である。晴れていればわ湖が綺麗に眺められるのだが、今日は雨が降っていないだけでも良しとし、遅い昼食とする。下山は足元に注意しながら金糞峠経由で正面谷を下りイン谷口より今朝の元来た道を比良駅へ帰る。今日は天気が悪かったとはいえ比良山系も最近では登山者が少なくなったなとつくづく思う一日でした。記:三原</p>								
連番	467	例会No.	一般284	内容	ベーシック登山No.14 生駒・交野山	実施年月日	2012/9/29	担当者	秋田、杉本(康)
参加者	秋田文雄、大石隆生、青木義雄、和田良次、和田敬子、喜多田恵美子、松本明恵、岩本和行、三原知未、三原博子、寄川都美子、近藤さとみ、實操綾子、堀木宣夫、山本洋、樺田克彦、田中和美、片山純江、和田都子、山下登志子、桜井宏子、寺島直子、小杉美代子						参加者数	23	

# 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>今回の例会は私の地元なので、私市はハイキング(くろんど池to交野山)代表され又子供頃から芋掘りのイメージしかなく、登山してのイメージ薄く今回は少し登山を味わってもらおうと、ハイキングコースを外れ土生川沿いに登るコース選択する。私市駅を左へすぐ車道に河内森駅方に線路沿いに行くと、土生川に川沿いに15分ほど行くと、車止め柵に10:00(入口にここはハイキングコースではありません。立て看板あり。)川沿いに林道行くと、すぐに細い登山に。登りも急になる頃。沢と尾根とはっきりとした分岐に。あとは細い尾根道を忠実に進めば、傍示峠方面のハイキングコースにでる。(このコースは標示もなくルートファイディングに悩まされるが、山に慣れてる人であればそんなに難しいコースではない。景色もなく、ただ私市には人も無く静かな山歩きができる。)10:44。あとはハイキングの道を進めばキャンプ場に到着11:29。広々としたテーブルのトイレあり少し早い朝食にする。此れより車道行くと、ゲート潜り次のゲートまで。ここでまた山道へ。里山の風景にまもなく野外センターを抜けると旗振山(345m3等3角点)に立ち寄り。ゲートで車道を100mほど下る。駐車場あり、その奥に細い山道を登ると交野カントリーにでる。三宝荒神の鳥居を潜りハシゴ段のある急坂を登ると交野山山頂13:10に出る。山頂の観音岩あり、360度の展望は大阪市内の高層ビル群遠くは(神戸方面・ポンポン山・京都方面・比叡山・奈良盆地・若草山・生駒方面)と340mと低い山にしてはめずらしい。山頂から白旗池通りいきものふれあいセンターで展示館(昆虫の標本や、鳥や動物の剥製、写真の展示)でこんな多く自然が有るとは思いませんでした。センターからありじごくの山道をゴルフ?の下を潜り抜け国見山(286m14:10)へ。山頂は交野山と同じく展望は良く木津川・宇治川・桂川の合流地点が良く分かる。国見山は津田城があったと言われ、津田周防守正信が築いた。1575年織田信長に攻められ焼かれたと言われている。下山は関電の巡視路なっている急傾斜を途中で展望デッキや夫婦岩ある展望の良い尾根を下り。一般道から第二京阪を潜り解散15:00全員でJR津田駅へ15:15 記:秋田</p>									
連番	468	例会No.	一般285	内容	太閤道～釈迦岳 10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズ No.9	実施年月日	2012/9/30	担当者	板谷、小椋(勝)	
参加者	板谷佳史、小椋勝久、安岡和子、江本恭子、寄川都美子、近藤さとみ、紀伊莚本博美、西村晶、西村美幸、櫻田克彦、堀木宣夫、神阪洋子								参加者数	12
担当者コメント	<p>前日の気象情報で、すでに例会当日は台風17号が近畿南岸を通過し、昼前から勢力圏内に入って強風雨となるのはほぼ確実でした。前夜6、7名の方から実施の可否問い合わせがありましたが、未確認のまま集合される人もいそうで、「ともかく予定どおり集合する」と回答。結果、翌朝12名が集合、予報通りの台風通過なら午前中だけで中止の心積もりでスタートする。歩き始めはちょうどよい風の強さで涼しい登りができた。それも太閤道の最高峰「若山」の三角点を踏む頃まで、以後傘では間に合わないうらいの強い雨風になる。太閤道の終点・若山神社の軒下を借りて雨をしのぎ中止を宣言し下山の準備。親切な神社の方が昼食場所を提供するとおっしゃってくださったが、丁重に辞退すると「こんな天気でも来ないのに貴方達が来てくれ神様も喜んで」とのこと。予定の三分の一で中止、「大阪湾を巡る隠れ山」のテーマである釈迦岳には立てませんでした。家でくさっているよりは、いづらかでも体を動かした甲斐があったかもしれません。 記:板谷</p>									
連番	469	例会No.	一般286	内容	和泉・犬鳴山、高鍋山～高城山 10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズ No.10	実施年月日	2012/10/7	担当者	三原、紀伊莚本(節)	
参加者	三原秀元、紀伊莚本節雄、岸田暎子、青木義雄、福田直也、堀木宣夫、西村晶、西村美幸、小杉美代子、岡本佳久、櫻田克彦、山本洋、和田良次、和田敬子、三浦美枝子、大島敏子、喜多田恵美子、實操綾子、田中和美、和田都子、藤田喜久江、杉本栄子、吉田伸實、安本昭久、紀伊莚本博美、寄川都美子、安岡和子								参加者数	27
担当者コメント	<p>10周年記念山行・大阪湾を巡る隠れ山シリーズの最終回の山行は、秋空の元27名の参加者で賑やかに歩いてきました。山自体は地味で、初心者の人にはちょっと物足りなかったと思いますが、犬鳴山の表行場を、ロープを使いながらの登山は、緊張の連続で非日常の一時は修験道の修行の心を少しは味わったのではないかと思います。役行者の祀られている護摩壇に全員無事集結して一休み、あとは高城山まで急登であるが樹林の中のよく踏まれた道を行く。12:25頂上に到着、昼食後次の高鍋山に向かう。ここもただ名前だけのピークで、途中大阪湾が樹間越しに少し見えたのみでした。朝登り始めた犬鳴山の本山七宝滝寺に下り、シリーズ山行を無事終了のお参りをして、犬鳴山バス停へと急ぐ。今回で10回完登者もおり代表より賞賛のお言葉を頂きました。 記:三原</p>									
連番	470	例会No.	一般287	内容	丹波・白髪岳	実施年月日	2012/10/14	担当者	小椋(勝)、大石	
参加者	小椋勝久、大石隆生、小杉美代子、近藤さとみ、寄川都美子、寺島直子、神阪洋子、杉本栄子、櫻田克彦、堀木宣夫、福田直也、西村晶、西村美幸、松本明恵、安本嘉代、谷村洋子、岸田暎子								参加者数	17
担当者コメント	<p>白髪岳までのアプローチは里道を1.0時間ほど歩く、黒豆の収穫時期なのか農家の人々が家族総出で畑の中で作業をしている。その中を国道から里道に入り少し歩くと目の前に白髪岳が現れて来る。白髪岳を見ながら歩くうちに、登山口に到着。ここから稜線までの急登を、息を切らせながら登りきり、尾根道を少し歩くと頂上直下の岩場に差し掛かる。稜線最初の岩場を登りきって横を見ると階段状の登山道が見え、こんな道が有ったのかと独り言、誰かに聞かれたのか後からEPEはこのルート(岩場)ですよとの頼もしい声、苦笑いをしながら次の岩場へ、岩場を登りきると丹波の山々が目の前に現れる。岩場を過ぎてすぐに白髪岳に到着、休憩を取り松尾山へ、雑木林の中の快適な山道を歩き松尾山に到着。松尾山からの下山途中、卵塔群(高仙寺のお坊さんのお墓)に到着、卵塔群に圧倒されながら往時の高仙寺のにぎわいを偲ぶ。祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の・・・を思い出し時の流れ、時の大きさを感じる。下山道から林道に入り住山の村に入ると農家の人たちが黒豆の沿道販売、住山の村並みを過ぎた頃には皆の手に黒豆の入った袋、思いがけぬ土産を買う事が出来、今夜はビールで一杯かと考えているうちに古市駅へ。今回は代役での山行でしたが秋の里山を堪能できました。声を掛けてくれたリーダーに感謝、感謝 記:小椋(勝)</p>									
連番	471	例会No.	一般288	内容	和泉葛城山南尾根 10周年記念山行・近畿の山EP E特選コース-10	実施年月日	2012/10/21	担当者	板谷、紀伊莚本(節)	

## 2012年度('11/11~'12/10)EPEクラブ活動報告

2012/10/E現在 板谷

参加者	板谷佳史、紀伊桒本節雄、福田直也、寺島直子、黒澤百合子、神阪洋子、寄川都美子、近藤さとみ、江本恭子、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子、山本洋、吉田伸實、青木義雄、山下登志子、紀伊桒本博美、杉本栄子、櫻田克彦、小杉美代子、西田保、岩本和行				参加者数	22			
担当者コメント	<p>創立10周年記念山行も「大阪湾を巡る隠れ山シリーズ」はすでに10回目を終了しており、全10回参加達成者は6名でした。今回は「近畿の山EPE特選コース」の最終10回目となります。連日続く秋晴れの元、南尾根の急登をこなしてEPEではおなじみの和泉葛城山山頂へ・・・車やバイクでのハイカーが多い所ですが、人知れず隠れたルートから苦勞して登って味わう山頂は格別のものです。下降路にとった松尾も人と出会うことは無く、地元の人すら辿ることはなさそうです。これで「近畿の山EPE特選コース」も終了し、全10回参加達成者は4名となりました。記念山行も来週の「悠々登山シリーズ・その4」を残すのみとなり、参加者の健闘を願って解散となりました。 記:板谷</p>								
連番	472	例会No.	OP175	内容	広島・比婆山と大山三鉢峰と皆生温泉 ハイキング+歴史探訪 No.21共催 10周年記念山行・悠々ツアー登山シリーズ・その4	実施年月日	2012/10/27~29	担当者	紀伊桒本(節)、西村(晶)、野原、大石
参加者	紀伊桒本節雄、西村晶、野原勇、大石隆生、櫻田克彦、畑山庄司、和田良次、安本昭久、畑山禮子、紀伊桒本博美、和田敬子、安本嘉代、杉本栄子、川崎喜美子、山下登志子、寄川都美子、寺島直子、近藤さとみ				参加者数	18			
担当者コメント	<p>比婆山連山は紅葉の名所であり、神話伝説の山です。北に下れば島根の奥出雲、南は広島の庄原で中国地方の分水嶺です。天気予報からして今日の雨は100%覚悟していましたが、幸いにも雨は降らず濃霧のなかで幻想的な紅葉を堪能しました。晴れていればまた違った印象をもったでしょうが、今日は今日で、味わいのある山行に満足ができました。伊邪那美と伊邪那岐夫婦の神話は、もはや世代の異なる今、県民の森の宿舎のパンフレットにもありません。亡くなった妻伊邪那美が恋いしく、黄泉(死後)の国までやって来た夫、伊邪那岐に、自分の腐敗した醜い姿を見られたと怒り、邪鬼となって迫る伊邪那美の神話は、なにかこの風景と重なるようで、濃霧の森の物語にふさわしい印象が残りました。</p> <p>戦国時代の西日本をめぐる覇者の戦いは、壮絶を極めました。出雲、伯耆を中心に現在の山陰地方を制した尼子一族と、安芸、現在の広島北部の一豪族から、やがて西日本最大、最強の戦国大名にいたる毛利一族の戦いは、かの東国の上杉、武田両軍の攻防を凌ぐ壮大なものでした。今回、私達の訪れた吉田郡山城と月山富田城は、この両軍の本拠地にあります。両軍の攻防は親子3代数十年にわたり、互いに相手の本拠地まで攻め込み籠城にまで迫りながら、逆にはばまれ敗走するなど勝敗は真剣かつ互角の戦いでした。ハイキング+歴史探訪の数々の中でも、これら両山城を一機に訪ねるようなことは、前回の熊本城、田原坂に続くまたとない機会です。果たして皆さんの満足度は如何でしょうか、むしろ、興味は帰宅後にふつつつと沸きあがれば幸いです。</p> <p>我々の日程に合わせてくれたような、天気にも恵まれました。三鉢峰登山は予想通りの楽しい山でした。宝珠山尾根の溢れんばかりの紅葉の渦から、大山北壁の圧倒的な全貌を、たとえガスの隙間の一瞬でも目にしたときは、その迫力に泣きました。人は幾つ何拾歳になっても、感動を求めてさ迷う様を、忘れてはなるまいと今日も強く思いました。お陰様で、悠々登山も創立10周年記念登山も、皆様のご協力を得て無事終了することが出来ました。終わり良ければ全て良し、皆さんの心意気がいつも以上にビシビシと感じられたのは、うれしい事です。明年度もさらなる充実を目指して、全ての会員の皆様とともに頑張りたいと思います。 記:紀伊桒本(節)</p>								
一般例会(新年会含む) : 38回 / 817名		オブション例会 : 17回 / 287名		例会合計 : 55回		参加者総数 : 1131名			